

---

# 締めて壱萬五千円なり

39 たらう

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

締めてき萬五千元なり

### 【Nコード】

N11140

### 【作者名】

39たろう

### 【あらすじ】

自分の個人情報が全世界に流出！？

しかも、世界最大手の検索サイトGoogleの検索結果に個人情報が出るといふ前代未聞の被害に遭遇した男が、企業と国家権力を相手に度胸とインターネットを駆使して孤軍奮闘した実話です。

尚、一部団体名及び個人名は変えてはありますが、起こった事件、

対処、会話、メールの内容などは事実を忠実に描いております。

突如として、前代未聞の個人情報漏洩事件の被害者となってしまう「自分」が、誰からの助けも得られず、とにかく勢いだけで突っ走るノンフィクションです。

# 1・個人情報の保護に関する法律の概要

## 第1章 総則

### 1 目的（1条）

高度情報通信社会の進展に伴い個人情報の利用が著しく拡大  
個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護

### 2 定義（2条）

「個人情報」：生存する個人に関する情報（識別可能情報）

「個人情報データベース等」：個人情報を含む情報の集合物（検索  
が可能なもの。一定のマニユアル処理情報を含む）

「個人情報取扱事業者」：個人情報データベース等を事業の用に供  
している者（国、地方公共団体等のほか、取り扱う個人情報が少な  
い等の一定の者を除く）

「個人データ」：個人情報データベース等を構成する個人情報

「保有個人データ」：個人情報取扱事業者が開示、訂正等の権限を  
有する個人データ

### 3 基本理念（3条）

個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべき  
ものであり、その適正な取扱いが図られなければならない。

## 第2章 国及び地方公共団体の責務等

### 1 国及び地方公共団体の責務（4条、5条）

#### 措置等（6条）

国の行政機関、独立行政法人等の保有する個人情報についての法制  
上の措置等

個人情報の性質及び利用方法にかんがみ、適正な取扱いの厳格な実  
施を確保する必要がある個人情報についての法制上の措置等

### 第3章 個人情報の保護に関する施策等

#### 第1節 個人情報の保護に関する基本方針（7条）

施策の総合的・一体的推進を図るための基本方針を国民生活審議会の意見を聴いた上で閣議決定

#### 第2節 国の施策（8条～10条）

地方公共団体等への支援、苦情処理のための必要な措置等

#### 第3節 地方公共団体の施策（11条～13条）

地方公共団体の保有する個人情報についての必要な措置

区域内の事業者及び住民への支援、苦情処理のあつせん等の必要な措置

#### 第4節 国及び地方公共団体の協力（14条）

### 第4章 個人情報取扱事業者の義務等

#### 第1節 個人情報取扱事業者の義務 必要に応じて一定の

適用除外を規定

##### （1） 利用目的の特定、利用目的による制限（15条、16条）

個人情報を取り扱うに当たり、その利用目的をできる限り特定  
特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えた個人情報の取扱い  
の原則禁止

##### （2） 適正な取得、取得に際しての利用目的の通知等（17条、 18条）

偽りその他不正の手段による個人情報の取得の禁止

個人情報を取得した際の利用目的の通知又は公表

本人から直接個人情報を取得する場合の利用目的の明示

(3) データ内容の正確性の確保(19条)

利用目的の達成に必要な範囲内で個人データの正確性、最新性を確保

(4) 安全管理措置、従業者・委託先の監督(20条)22条)

個人データの安全管理のために必要かつ適切な措置、従業者・委託先に対する 必要かつ適切な監督

(5) 第三者提供の制限(23条)

本人の同意を得ない個人データの第三者提供の原則禁止

本人の求めに応じて第三者提供を停止することとしており、その旨その他一定の事項を通知等しているときは、第三者提供が可能

委託の場合、合併等の場合、特定の者との共同利用の場合(共同利用する旨その他一定の事項を通知等している場合)は第三者提供とみなさない

(6) 公表等、開示、訂正等、利用停止等(24条)27条)

保有個人データの利用目的、開示等に必要な手続等についての公表等  
保有個人データの本人からの求めに応じ、開示、訂正等、利用停止等

(7) 苦情の処理(31条)

個人情報の取扱いに関する苦情の適切かつ迅速な処理

(8) 主務大臣の関与(32条)35条)

この節の規定の施行に必要な限度における報告の徴収、必要な助言  
個人情報取扱事業者が義務規定(努力義務を除く)に違反し、個人の権利利益保護のため必要がある場合における勧告、勧告に従わない  
一定の場合の命令等

主務大臣の権限の行使の制限(表現、学問、信教、政治活動の自由)

(9) 主務大臣(36条)

個人情報取扱事業者が行う事業等の所管大臣。規定の円滑な実施のために必要があるときは、内閣総理大臣が指定

## 第2節 民間団体による個人情報の保護の推進

(1) 団体の認定(37条)、対象事業者(41条)

個人情報取扱事業者の個人情報の適正な取扱いの確保を目的として、苦情の処理等を行おうとする団体の認定

認定団体による対象事業者(団体の構成員等)の氏名又は名称の公表

(2) 個人情報保護指針(43条)

認定団体による個人情報保護指針の作成・公表

(3) 主務大臣の関与(46条～48条)

この節の規定の施行に必要な限度における報告の徴収

業務の実施の方法の改善、個人情報保護指針の変更等についての命令  
認定基準に適合しなくなった場合、命令に従わない場合等における  
認定取消し

(4) 主務大臣(49条)

対象事業者が行う事業等の所管大臣。規定の円滑な実施のために必要があるときは、内閣総理大臣が指定

## 第5章 雑則

報道、著述、学術研究、宗教活動、政治活動の用に供する目的で個人情報を取り扱う報道機関、著述を業として行う者、学術研究機関等、宗教団体、政治団体については、第4章の適用を除外(50条1項)

これらの主体は、安全管理、苦情処理等のために必要な措置を自ら講じ、その内容を公表するよう努力(50条3項)

この他、権限又は事務の委任、施行の状況の公表等について規定

## 第6章 罰則

個人情報取扱事業者が主務大臣の命令に違反した場合等における罰則

(56条～59条)

## 附則

公布の日（平成15年5月30日）から施行。第4章から第6章までの規定は、公布後2年以内に施行

（附則1条）

経過措置（附則2条）6条）

内閣府の所掌事務等に本法施行関係の事務を追加（附則7条）

補足：個人情報保護法および同施行令により、5000件を超える（5001件以上の）個人情報を個人情報データベース等として所持し事業に用いている事業者は個人情報取扱事業者とされ、個人情報取扱事業者が主務大臣への報告やそれに伴う改善措置に従わない等の適切な対処を行わなかった場合は、事業者に対して刑事罰が科される。

## 2・発覚（2009年11月14日）

地元の楽しい寄り合い。そこで突如、事件は発覚した。ほろ酔いの友人、石狩が言ったその一言から、全てが始まった。

「あ！…そうそう！…お前の個人情報、漏れてるよ」

自分は耳を疑った。個人情報保護法。普段、自分は個人情報を扱う身分である為、その言葉の重さは酔ってはいても十分に理解できた。

「え！？…マジ？」

疑心暗鬼の自分は石狩に詰め寄った。彼もコンピュータをはじめ個人情報の扱いには極めて慎重に成らざるを得ない職業に就いている。自分は石狩が見せてくれた携帯画面を覗き込んだ。そしてその目を疑った。

ハンドルネーム『39太郎』でGoogle検索すると自分の本名、性別、年齢、誕生日、住所が検索結果にモロ露出していた。

しかも世界最大手の検索サイトGoogleの検索結果に出ているのである。今までこんなの見たことも聞いたこともない。

Winnnyなどの共有ソフトでの流出ではない。

悪意ある者が持ち出したものでもない。

Googleのクロールに完全に引っかけかっってしまった。こんな酷いサイト、見聞きしたことない。

普段使うハンドルネームは『39たろう』。ひらがな表記である。しかし『39太郎』の漢字表記で登録しているサイトはただひとつ。ゲーム系ニュース・サイトの『MIDSIDE』だけである。

楽しかった筈の酒の席が突如検索チエックの場になってしまった。ハンドルネームでなく、本名、誕生日、住所でもGoogleの検索結果に露出することが判明した。しかも携帯である。PCならばどうなるのか？ 自分は一気に不安になった。

Googleの検索結果に個人情報が漏洩するなんて、今まで聞いたことない。

まさに前代未聞の個人情報漏洩の被害者になってしまったのである。

### 3・検索(2009年11月15日)

日曜日。

昨日は随分呑みすぎたらしい。頭が痛いにも関わらず自分は朝早く目が覚めた。

頭が痛い理由は他にもあった。

Googleの検索結果に自分の個人情報が出るといって前代未聞の事件の被害者である事が、判明したからである。

軽く朝食を済ませ、早速パソコンの画面に向った。

Googleのトップ画面を開き、『39太郎』とだけ入力し検索してみた。

> i 1 3 1 6 3 — 1 7 4 7 <

昨夜と何の変化もない。

自分の個人情報である本名、性別、年齢、誕生日、住所がGoogleの検索結果画面に見事に露出している。

Googleで引つ掛かるという事は他の検索サイトではどうなのか？

試してみる価値は十分にありそうだ。

ピンゴ！

国内の他の検索サイトでも同じ結果が出た。

ちよいと前までなら、検索エンジンの優位性を各社が競っていたが、今やGoogleの一人勝ち状態でわざわざ開発費を割いてま

で検索エンジンを開発しようなんて思うサイトは最早ない。  
あるとすればマイクロソフトぐらいであろう。

今やサイト名こそ違えどGoogleの検索エンジンを使っているところなどざらである。

結果、Go、Biglobe、OCN、Livedoor、bing、niftyでも同じ現象が再現された。

> i 1 3 1 6 2 — 1 7 4 7 <

これはあくまで検索サイトの検索結果の画面である。条件にヒットするHPが表示されているに過ぎない。

そこで検索結果をクリックしてみたらどうか？

まさかとは思いが、そのままログインできたりするのだろうか？

…となると、『39 太郎』に成り済ましが可能である。

いや、流石にそこまでは酷くないであろう。エラー画面になる筈である。

> i 1 2 7 5 0 — 1 7 4 7 <

…あっさりログインしてしまった。いったい何というセキュリティ意識の低いサイトなんだ。流石に朝から呆れてしまった。

ちなみに余所からはどうなんだろう？

自分のPCだからログインできたのであって、他人のPCでは流石にログインしないだろう。きっと、クッキーの問題に違いない。

そう思った自分は知人の細田に電話した。

事情を話して、電話伝いに全く同じ動作をしてもらった。

結果は同じだった。

『39太郎』のなり済ましは可能であることが証明された。

ちょうどその頃、石狩も起きたらしく電話があった。

今ここで起こった事を一通り説明し、呆れ果てた声が返ってきた。

「今、中国にいる奴が居るんだけど、彼にも試してもらおうか…」

断る理由はなく、すぐさま自分はお願いした。

1時間後ぐらいに結果の連絡を入れるということで電話は切れた。

そして、1時間後。

上海にいる石狩の友人からの報告である。

「中国でもまったく同じ現象が発生したそうだ」

いったい何という事だ？

世界中に自分の個人情報駄々漏れになっているということか？

最早、迷っている間はない。

M i D S I D Eのメール・フォームから凹メールすることにした。

内容は以下の通り。

【緊急】個人情報漏れについて

M i D S I D Eの皆様、いつも拝見させて頂いております。

さて今回メールをさし上げましたのは、個人情報漏れについてです。

当方のハンドルネーム「39太郎」にてGoogleの検索を行ったところ

「39太郎さんのプロフィール」が上位にてヒットし、制限なしに閲覧できることが発覚し、ご連絡した次第です。

本名、性別、年齢、誕生日、住所、全てが無制限で閲覧でき個人情報保護法第4章第1節に抵触することを当方にて確認させて頂きました。

この件につきまして以下の要望を致します。

? 個人情報保護の漏れがあったこと、原因の開示、今後の個人情報保護に関する取り組み、当方以外の同様の問題の有無、MIDSIDEにおける個人情報の取り扱いのコンプライアンス、当件における謝罪、をMIDSIDEのHPのトップページにて明確に掲載すること

? Google社への削除要請手続き

? 損害賠償の請求

以上、3点について強く要望致します。

尚、当件につきまして2009年11月16日までにMIDSIDE様からメール等でご連絡がない場合は、2009年11月17日付けで東京弁護士会、国民生活センター、財団法人インターネット協会等への通告をする所存であります。

早急かつ適切な対応を望みます。

今日は日曜日である。

返事など来る筈もない。

自分は今もうひと寝入りすることにした。

#### 4・消火（2009年11月16日）

在宅勤務。

書いて字の如く、自分は自宅で仕事をしていた。

もっぱら、プロジェクトの合間など常駐契約がない場合、現場にいる連中からの連絡により資料の作成や、時にはプログラムの解析や修正を行うこともある云わば便利屋さん。

しかし、その年2009年に限っては寧ろ「不景気」という理由が先について回るものの、自分は在宅勤務が基本的に好きであった。ひとつは私服で良いこと、もうひとつは比較的、時間が自由に使えるからである。

午前中、ちょこちょこつとした作業をこなし、遅めの昼食を食べているところに届いた。昨日の凹メールの返信が午後今頃になってやって来た。

2009年11月16日 13:21

【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭 潤様

お世話になります。IPエコーマス&テクノロジーで個人情報管理責任者を務めております、久慈と申します。

この度、ミッドサイドのプロフィールに関してご連絡いただきました件、弊社側にて早急に調査させていただき、改めてご連絡をさせ

ていただきます。

取り急ぎ、表示されている桜庭様の情報（本名/住所）に関しては表示を隠す処理をさせていただきました。

大変申し訳ありませんが少々お時間ください。

以上、よろしくお願い申し上げます。

-----  
-----  
-----  
株式会社IPI コマース&amp;テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxx-xxxx(代表) 03-xxxx-xxxx  
(管理本部)

久慈 泰造 dkujii@IPI.co.jp

随分とあっさりしたメールである。

現象が現象だけに取り急ぎのメールであることは理解できた。

しかしビジネス・メールとして内容が詫びや謝罪の場合は、朝一か、どんなに遅くとも午後までに送るのが常識だ。

そもそも詫びや謝罪の一文など一切ない最低なメールである。

自分は、あくまで『MIDSIDE』にメールしたのであって、

『IPIコマース&テクノロジー』なる所にメールした覚えはない。

差出人本人の素性の紹介すら、まともに出来ていない。

ビジネス・メールとしては全てにおいて「0点」である。

このような人間が「個人情報管理責任者」を勤めている企業が相手だとしたら、これはとても厄介な事になると自分は真っ先に思った。

この様に追い込まれ、守りに入った時にこそ、その人間の本性は現れるという。

文面から伝わるのは、ユーザーの安全よりも自らの保身を優先させる嫌な人間性のみ。

久慈なる人間のメールの文面から自分はそう読み取った。

突然飛び込んだ、あまりの大事に大童なのは、よく分かる。

とり急いで消火作業に勤しんでいるのも、よく分かる。

しかし、午後を大きく回っての第一報は、あまりにも遅すぎる。

それにしても、まったく心が伝わってこない冷たいメールである。きっと本人もそういう人間なのであろう。

仕方がない。取り敢えず、こちらにも返信メールを送ることにする。

2009年11月16日 14:10

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

久慈様

早々のご連絡ありがとうございます。

ミッドサイド様の早急な対応に感謝を申し上げます。

今回の件につきましては、検索サイトの最大手Googleの検索結果にて個人情報が表示されることが最大の問題と認識しております。

今のところ前例のない事柄だけに、ミッドサイド様の対応を当面待ちたいとの意向であります。

以上、よろしくお願い致します。

まったくもって、嫌味の過ぎるメールだと我ながら思う。

自分の思いとは全く相反するメールである。

つくづく自分も、たちの悪い人間だと思った。

程なく返事が来た。

本人は技術者ではないであろうから、これといてすることはな  
いと思われる。

あるとすれば、上司への報告ぐらいであろう。

2009年11月16日 15:12

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭様

お世話になります。IPICOMAS&amp;・テクノロジー久慈で

す。

弊社側でも、googleのキャッシュ削除の方法に関しては、なるべく短時間で実行されるような手段を技術側にて調査しております。

実際に行った内容含めまして、桜庭様の方にご報告させていただきます。

取り急ぎご連絡まで。

以上、よろしくお願いいします。

- - - - -  
- - - - -  
株式会社IPII コマス&amp;テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxxx-xxxxx(代表) 03-xxxxx-xxxxx  
(管理本部)

久慈 泰造 dkujii@IPII.co.jp

こいつ、真剣にアホだ。

自分のおべつかメールに釣られまくっている。

しかも最後の1行、「以上、よろしくお願いいします」…ユーザ  
ーに、しかもクレーム対応で送るメールなら、送信前にせめて誤植  
ぐらい見直せよ！

呆れた自分はGoogleに固執する久慈という男に対し、視野を広げる意味を込めて返信した。

2009年11月16日 15:45

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

久慈様

ご足労おかけします。

当方で確認しましたところ、以下の検索サイトでも同様の現象が発生しております。

- ・ G O O
- ・ B i g l o b e
- ・ O C N
- ・ b i n g ( M S N )
- ・ L i v e d o o r

尚、Googleに關しましては海外から検索した場合でも同様の現象が発生しております。

お忙しい中、恐縮ではありますが、よろしく願います。

久慈なる男に水を浴びせかけるような意地の悪いメールである。  
しかも敢えて「nifty」は伏せておいた。IPII コマース  
& amp; テクノロジーと久慈なる男を試す為だ。

流石に水に濡れたことに気付いたのだろうか、うるさい男だと思  
ったのか、素早い返信が来た。

2009年11月16日 15:49

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭様

お世話になります。IPII-CT久慈です。

現在までに対googleとして、弊社にて実行した作業をご報告  
させていただきます。

以下の作業にてgoogle側のキャッシュがいつ削除されるかは  
google側からの連絡はないのですが、取り急ぎ作業内容を  
記載させていただきます。

1) 2009/11/16 14:22  
robots.txt に以下を追加  
Disallow: /user/

これは対象フォルダのページのキャッシュをさせない、という

処理です。

2) 2009/11/16 14:30

Google ウェブマスターツールでクローリング頻度を最高速に変更

これまで：「クローリング速度はgoogleが決定(推奨)」

変更後：ユーザ側で設定 「最高速度」に設定

これはgoogleがなるべく早くクローリングしてくれるようにする為の処理です。

3) 2009/11/16 14:59

ユーザ関連の Web ページに

```
> meta name="robots" content="noindex"<  
> meta name="robots" content="noarchive"<  
を追加
```

1)と同様ですが、これはページ自体にキャッシュをさせないように、という処理です。

4) 2009/11/16 15:03

Google ウェブマスターツールで URL の削除リクエストを登録

ディレクトリの削除 : http://www.midside

- games.jp/user/

ウェブ ページの削除 : http://www.midside

```
- ggames.jp/user/userinfo.php
ウェブページの削除 : http://www.midside
- ggames.jp/user/userinfo.php?id
= 25377
```

```
ディレクトリの削除 : http://secure.mid
side-games.jp:443/user/
ウェブページの削除 : http://secure.mid
side-games.jp:443/user/userinfo
.o.php
ウェブページの削除 : http://secure.mid
side-games.jp:443/user/userinfo
.o.php?id=25377
```

以上、ご報告まで。

```
- - - - -
株式会社IPII コマー&amp;amp;テクノロジー
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F
03-xxxxx-xxxxx(代表) 03-xxxxx-xxxxx
(管理本部)
- - - - -
久慈 泰造 dkujii@IPII.co.jp
```

HPを一度でも作った経験をお持ちなら、このメールを読んで腹を立てない人間はいないだろう。

robots.txtに「Disallow: /user/」を追加したという事は、今まで、排他処理を全くしていなかったということである。

もしや追加前は「\*」だったりしないか？

そしてユーザ関連のページに

```
> meta name="robots" content="noindex" <
> meta name="robots" content="noarchive" <
を追加したと自慢げに書いてある。
```

こりゃGoogle等のクローलに引っ掛けて下さいと言わんばかりのお粗末なHPだ。

はつきり言つて素人以下である。

しかも、いちいちご丁寧な説明文付きだ。

自分も随分と舐められたものだと思った。専門用語を並び立てて素人を丸め込む手法丸出しのメールだからである。

メールから伝わってくるのは、「僕たち、頑張ってます 難しいことは、任せてね」のみ。

自分の我慢の限界を一気に吹き飛ばす強力なメールである。そこで正体をばらすことにした。

2009年11月16日 16:18

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

久慈様

早々のご連絡とご対応ありがとうございます。

正直申しますと私もIT業界に携わる者で、普段からgoogle botやクローリングと格闘しております。その為、作業内容はとてもよく分かります。

しかし、このような初歩的な仕様とコーディングの考慮漏れで運用されていたら知り呆れました。

尚、ネットで調べましたところ、インターネットでの個人情報漏れの場合、国内では該当するサイトの利用者及び登録者一人につき1円というのが補償相場となっているそうです。

ざっと計算してみた結果、天文学的な数字になります。

そこも今後の対応に含めていかざるを得ない状況ではあります。

引き続き対応と連絡の程、よろしくお願い致します。

ちょうど同じ頃、他社の通信教育系サイトでも個人情報漏れがあり、情報閲覧可能だったサイト登録者一人に対して1円という換算で補償するという事件があった。

それと同じ換算をした場合、全世界でのGoogle利用者数は40億人で40億円というとんでもない補償額になる。Google以外も含めるとざっと80億円になる。

あまりにも非現実的な補償金額になりますよ、というちょっとした脅しを込めたメールである。

実際のところ企業側に40億も80億円も払える訳はなく、自分も受け取るつもりはない。

ただユーザーに対しての真摯な態度と謝罪が欲しかった。素人と決め付けての舐めきったメールの文面が何よりも気に入らない。

流石に今回のこのメールは応えたのだろう。返信メールがびたりと来なくなった。

その間に『株式会社IPII コマース&amp;amp;テクノロジー』なる会社を調べてみることにした。

ゲーム系ニュース・サイトの『MIDSIDE』だけでなく、IT関連のニュースを扱う『RCC TODAY』を運用するニュース配信を主だった業態とする、一部では時代の寵児と持てはやされる企業であった。

そして3時間後、上司や役員、顧問弁護士らとの話し合いを終えましたと言わんばかりのタイミングで返信が来る。

2009年11月16日 19:02

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭様

お世話になります。IPII コマース&amp;amp;テクノロジー久慈です。

ご連絡いただきました、検索サイトは以下のような状況のようです。

参照 [http://www.alpha-seo](http://www.alpha-seo.jp/seo)

-report/090716\_91815.html

< . Googleエンジン利用

< . Biglobe Googleエンジン利用

< . OCN Googleエンジン利用

< . Livedoor Googleエンジン利用

< . bing(MSN) 独自エンジン

nifty Googleエンジン利用

ODN Yahooエンジン利用

infoseek Yahooエンジン利用

excite Yahooエンジン利用

YahooJ Yahooエンジン利用

Googleエンジンを利用しているサイトは、今回の対処で同様にキャッシュの表示は無くなると思います。

また、Googleの海外はご存知と思いますが、表面的に日本語かどうかのフラグがあるだけで、根幹は同じなので、同対処で問題ありません。

Yahooエンジンはキャッシュされていません。

bing(MSN)に関しては、削除を依頼できるか調査中ですが、ミッドサイド側にて根本の処理を行っているので、対応できて

いないという状況ではありません。

また、現在のところgoogle側のキャッシュは削除されている  
ようです。

ただし、googleの管理画面上からも削除が間違いなくされて  
いるか  
フラグを確認しています。

最初頂きましたメールに記載いただきました「?  
」?  
」に関して、弊社側での意見をまとめておりますので、  
当初ご連絡させていただきました通り、少々お時間ください。

以上、よろしく申し上げます。

- - - - -  
- - - - -  
- - - - -  
株式会社IPI コマス&amp;amp;テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxxxx-xxxxx(代表) 03-xxxxxx-xxxxx  
(管理本部)  
- - - - -  
- - - - -  
- - - - -  
久慈 泰造 dkujii@IPI.co.jp

誤字・脱字が散在する文面にいささかの疲れと現実問題に直面し

たという実感がこもっている。

確かにGoogle関連での現象は消えた。niftyにも気付いたようだ。しかしマイクロソフト社のbingに関しては消せるかどうかさえ分からないと素直に打ち明けてきた。

HPでの謝罪と自分への賠償も懸案にあげてきた。

消火活動が終わり、少しずつ物事が現実に向き始めたように思った自分は労いの気持ちも込めて今日最後の返信をする。

2009年11月16日 21:50

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

久慈様

bing以外のGoogleのキャッシュの件は確認致しました。  
ありがとうございました。

先のメールで送りました??も善処されることを期待しております。  
尚、htmlファイル等、今件の証拠となりうるほぼ全ての物件は当  
方でも取得済みであります。

誠意ある対応を期待しております。

消火活動に追われた一日が終わった。

結局、この件に関しての謝罪はまだない。

そして、IPIIコーマス&amp;テクノロジー社及び久慈泰造

の自己紹介も未だない。

ビジネス・マナーとしては「0点」の会社と言わざるを得ない。

5・布告(2009年11月17日)

おそろしく静かな一日だった。

作業は午前中早くに終わり、先方からのOKも早々に貰っていた。今のところ他に作業の予定はなく正午を迎える前に昼寝でもしようかとさえ思った。

しかし、静かなのは本来おかしいのだ。

個人情報漏れの件でIPI コマス&amp;テクノロジー社から、連絡の一本、メールのひとつがあつて当然である。

幸いにもIPI コマス&amp;テクノロジー社とウチまでは地下鉄一本、20分足らずで来ることが可能である。

binggのキャッシュからログインが可能な件はまだ残っているが、ひとまずは落ち着いた筈である。

欲しているわけではないが、菓子折りのひとつでも持って、頭のひとつでも下げに来るのなら今日であろう。そうであるならば、アポ・メールをよこして来る筈である。常識的な企業ならば…。

いつもの通り、粗末な昼食を済ませPCに向うが、それらしきメールはない。寧ろ、午前に作業した件で担当者から、お礼のメールが来ていた。

「朝から急に無茶言つてごめん。助かった。ありがとう」

彼との付き合いは長いが、これこそが常識だと自分は思う。

こちらにも返信する。

「いえいえ、お役に立てて光栄です。…それよりも、まとまった仕事早く持って来い！（笑）」

いつも通りのやりとりである。

午後2時を回ってもIPII コマス&amp;テクノロジー社から、久慈泰造なる男から、一切メールはない。

暇な身分であった自分は、ここいらで個人情報保護法についての勉強をすることにした。

まだ出来て新しい法律だけあって、なかなか上手く纏まったサイトはなく四苦八苦するものの、何となくポイントは見えてきた。

5001人以上の個人情報、つまり個人が特定できうる情報（氏名、年齢、誕生日、性別、住所、電話番号、年金番号、保険番号、メール・アドレス等）を過去半年間に取り扱った者は営利・非営利を問わず個人情報取扱事業者とみなされる。

逆に言えば過去半年間に5000人の個人情報を越えなければ個人情報取扱事業者とはみなされず、一個人も個人情報取扱事業者とはならない。

つまり個人情報取扱事業者じゃなけりや、個人情報を漏洩させても何の規制もないということである。所謂、名簿屋と言われる輩はこのギリギリのラインで商売しているのだろうか？

今件には関係ないが、この法律の盲点のひとつはここらしい。

どうやら5000人という数字が大きな目安ということだ。

昨日の動きを見る限り、IPII コマス&amp;テクノロジー社は個人情報取扱事業者の様である。

色々調べていくと個人情報保護の体制を整備している事業者を認定するプライバシーアイコン制度というものがあるらしい。

I P I コマース& a m p ; テクノロジー社の H P にもプライバシーアイコン、略して P アイコンが貼られていた。財団法人日本情報処理開発協会プライバシー事務局から個人情報保護の体制を整備している事業者と認定されている企業という事だ。

まあ、利用者に対する個人情報取り扱いの安全宣言の様なものである。あくまで表向きは…。

そして、それらを監督する省庁も複数に渡り、事業内容によって若干異なる。今件の場合は総務省と経済産業省が該当し、消費者庁は微妙である。

つまり、個人情報取扱事業者が個人情報漏洩を起した場合、これらの団体や省庁への届出が必要ということだ。

それにしても色々難しい法律の様である。

個人情報保護法、正確には個人情報の保護に関する法律が 2005 年に施行されて以来、個人情報漏洩被害者が勝訴した例は確かにあるものの、被害者一人に対して僅か 15,000 円の損害賠償をする様に命じたものが、最高額らしい。慰謝料として 10,000 円、弁護士手数料として 5,000 円ということだ。

未来永劫、被害者の個人情報は何者かに悪用される可能性はあると裁判所は認めたにも関わらず、慰謝料はたったの 10,000 円である。随分と安い未来だと自分は思った。

そうこうするうちにタスクバーの右隅は 17:00 を回っていた。

結局、I P I コマース& a m p ; テクノロジー社並びに久慈泰造は謝罪に訪れるどころか連絡一本よこさなかった。

本気で0点な会社だと思った。

流石にそれはないだろうと凹メールすることにする。

2009年11月17日 17:16

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

久慈様

お忙しい中、失礼致します。

昨日はGoogleのキャッシュ削除の件、ご対応頂きましてありがとうございました。

当方と致しましては当件につきましてあまり時間を費やしたくないのと当方の都合もございまして、ご検討中かとは思いますが期限を設けさせたく思います。

IPI様のご都合もあろうことなので、IPI様から期限をご提示頂ければ幸いです。

あと、ご存知かと思いますが、当件の様な個人情報流出に關しまして総務省と消費者庁への報告が義務付けられております。そちらへの報告はなされているのでしょうか？

重ねて報告の程、よろしくお願い致します。

丁寧な言葉遣いではあるが、相当な嫌味を込めたメールである。本当に自分は腹が黒い。

相手も腹黒いのだろうか？

待てども待てども返信は来ない。何故だ？  
今のメールって、それ程クリティカルなものだったのか？  
だったら、どの箇所に引っ掛かっている？

確かに嫌味を込めたメールではある。

しかし、プライバシーアイコン取得企業ならば大した内容のメールではない筈だ。

自分にもプライバシーというものがある。

仕事半分、遊び半分で人と会う約束がある。

所謂、飲み…である。

待ちきれない自分は出掛けることにした。

まあ、まだ火曜日。

暇な身分とはいえ、日付が変わらぬ時間にウチに帰った。

ほろ酔いではあるが、頭ははつきりとしている。

PCを立ち上げ、メーラーを開くと久慈なる男からのメールが届いていた。

20時36分。自分がメールを送って3時間後である。随分と遅い返信メールだ。

2009年11月17日 20:36

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭様

お世話になります。IPI コマース&amp;テクノロジー久慈  
です。

ご連絡いただきました弊社からの回答の件ですが、関係部署と  
調整をしております、時間がかかっておりますが、週明けの  
24日までにはご回答が出来るよう努力しております。

大変申し訳ありませんが何卒ご容赦ください。

また報告の件ですが、弊社はプライバシーアイコン取得企業です  
ので、まずは「財団法人日本情報処理開発協会 プライバシー  
アイコン事務局」に連絡を行い、事務局の指示に従って関係省庁  
に報告をすることになっていきます。

手順的に、必要な措置がなされた後に報告することになって  
おりますので、明日、事務局には連絡する予定であります。

ご連絡が遅くなりまして申し訳ありませんでした。

以上、よろしくお願い申し上げます。

- - - - -  
株式会社IPI コマス&amp;テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxx-xxxx(代表) 03-xxxx-xxxx  
管理本部)

久慈 泰造 dkujii@IPI.co.jp

文面から察するに自分がメールしなければ連絡などする気もなかったことが、ありありとしている。

関係部署との調整中で週明けに回答できるよう「努力してます」  
てか…。  
何も進んでいない。何の進捗もありません！…て威張って言うことか？

そして「プライバシーアイコン取得企業」であるということが妙に強調されている。  
プライバシーアイコン取得企業だから、必要な措置が終われば連絡するつもりであったとの言い訳にしか読み取れない。

必要な措置がなされる前にやっておく事があるのではないだろうか？  
連絡が遅れた事は確かに詫びている。  
しかし、個人情報漏洩に関しては、未だに詫びも謝罪もない。

I P I コマース& a m p ;テクノロジー社はプライバシーアイコン取得企業なので謝る必要などない!...と言わんばかりである。

流石に自分も頭にきた。

いよいよ動く時が来たのかもしれない。

2009年11月17日 23:44

Re : 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

久慈様

お世話になります。

メール拝見させて頂きました。

3日間対応の程、見守らせて頂きました。

しかし貴社の対応につきまして、事の重大さと危機感、そして誠意が全く感じられませんでした。

特にユーザーに対する配慮がまったく欠けております。

ご努力されている中、大変恐縮ではありますが、当方にて本日より然るべき措置をとらせて頂きます。

何卒、ご理解の程よろしくお願い致します。

明日は丸々一日OFFだ。

ほろ酔いの頭で証拠物件を全てプリント・アウトし、明日の動きを張り巡らせる。

これは、IPII コマス&amp;mp・テクノロジーなるビジネス・マナー「0点」の企業への自分からの宣戦布告である。

6・開戦（2009年11月18日）

午前9時49分、携帯が鳴った。

I P I コマース& a m p ; テクノロジー・久慈泰造なる男のメールが転送されてきたことを携帯の画面は報せていた。

昨夜、自分が深夜に送った宣戦布告メールに対する返信と思われる。

2009年11月18日 9:49

Re : 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭様

お世話になります。I P I コマース& テクノロジーの久慈です。

ご連絡いただきました件了解しました。

弊社の窓口を連絡する必要がある際は、私の名前をお伝えしていただければと思います。

株式会社I P I コマース& a m p ; テクノロジー

東京都 区中央1-22-3 x x x ビル16F

03-x x x x - x x x x (代表) 03-x x x x - x x x x (

管理本部)

個人情報管理責任者 取締役 久慈 泰造

くじたいぞう

以上、よろしくお願ひします。

株 式 会 社 I P I    コ マ ー ス & a m p ; テ ク ノ ロ ジ ー  
東 京 都    区 中 央 1 - 2 2 - 3    x x x x ビ ル 1 6 F  
0 3 - x x x x - x x x x ( 代 表 )    0 3 - x x x x - x x x x )  
管 理 本 部 )

久慈 泰造    d k u j i @ I P I . c o . j p

以外にも、あっさりと了解との旨を伝えてきた。

先方の了解が得られたのだから、もう迷っている暇はない。行動あるのみだ。

しかし随分とゆっくりとした返信である。出社は午前10時ということであろうか？

それにしてもメールの件名、いい加減「Re:」で返し続けるのはどうかと思う。

こういうところにも誠意が感じられないが、随分と余裕の感じられるメールである。

受けて立つという姿勢が見て取れる。「取締役」という役職を初めて伝えてきたのがそれだ。

自分は全国チェーンのコーヒー・ショップの一番奥の喫煙席で冷めきった残りのコーヒーを一気に飲み干し、最後にひとふかしした煙草を揉み消して席を立った。

コーヒー・シヨップを出て真つ先に向つた先は、区立消費者センターである。

区立消費者センター。

全国に存在する商品やサービス、消費生活全般に関する苦情や問合せなどを消費者からの相談を専門の相談員が受け付け、公正な立場で処理にあたってくれる所である。

さらにそれらの中央的な役割を果たすのが、国民生活センターである。

動くなら早いに越した事はない。その為、自分は区立消費者センター傍のコーヒー・シヨップで待機していたのだ。

お陰で、コーヒー一杯で一時間も時間を潰す破目になりはしたが…。

小奇麗で清潔感のある建物内に入る。

場所に似つかわしくない警備員が声をかけてきた。

「どちらへお越しですか？」

「区立消費者センターです」

「ああ、じゃあ3階になります」

どこの施設も最近是不審者に対して敏感だ。

きっと自分もこの場所に似つかわしくなかつたのであろう。

エレベーターが開き、明るいフロアが一望できる。

白を貴重とした清潔感溢れる大きなカウンターが印象的だ。

カウンターには既に先客があり、歳にして50代と思しき女性が

偽ブランド商品について担当者と何やら話し込んでいた。

自分は、それを横目に少々間を空け誰もいない席に腰を掛ける。すると程なく、受付の女性がやってきて丁寧に要件を聞いてきた。

自分は「個人情報漏洩について、相談にやってまいりました」と言った。

「個人情報漏洩」という言葉に受付の女性は一瞬眉をひそめ、「少々、お待ちください。担当の者を選んでまいります」との言葉を残し、担当者のもとへ向った。

区立消費者センターとは言ってもセンターによって、その得意分野や評判はまちまちで昨日ネットで調べた結果、個人情報の問題にも真剣に取り組んでくれるというかなり評判が良いのが、今いる区立消費者センターである。

何の偶然か、ウチから最も近い区立消費者センターであったのが、幸いであった。

程なくして、眼鏡をかけた歳にして、40代といった女性がやってきた。

「はじめまして。私、消費生活系の神谷と申します。本日はどういったご用件で？」

「個人情報漏洩の被害にありましたので、ご報告と相談に参りました」

「当人は、被害者になられるのですね？ …では、すいませんが、こちらへお越し下さい」

自分は別室へ通された。

個人情報漏洩の被害を訴えに来たのである。

悠長にカウンターで話せる話題ではない。

外部に声が漏れない別室に案内され、暫し待つ。いたって当然の措置である。

暫らくすると先程の女性が幾つかのファイルや資料を持って部屋に戻ってきた。

「あらためまして。私、産業経済課・消費生活係の神谷と申します。主に個人情報の漏洩について担当しております。：差し支えなければ、お名前の方を教えていただいて構いませんでしょうか？ 大変デリケートな問題になりますので、仮名でも構いません」

本名を聞いても差し支えないか？ それを聞いてきた。見た目の柔らかな印象に反して、かなり鋭い経験豊富そうな女性である。信用してもよいとの印象を持った。

「はい。本名で構いません。：桜庭潤と申します」

自分も立ち上がり、軽く会釈した。

「では、桜庭様。：個人情報漏洩の被害に会われたということ、こちらにいらっしやっただろうで、詳細をお聞きしてよろしいでしょうか？」

二人は白く大きい、それでいて相談員との距離感を感じさせないテーブルに腰をかけた。

自分は昨夜、プリント・アウトした証拠物件をテーブルに並べ順を追って説明をする。

流石は個人情報の問題に携わっている方である。一度の説明で事の次第を把握された。

「もう一度お聞きます。Googleの検索結果：キャッシュに桜庭様の個人情報が出てしまったということですね。そして、その現象は今もbingでは解消されていないということ間違いございませんね」

プリント・アウトしたGoogleとbingのキャッシュ画面を眺め、驚嘆した口調で言った。

「あの、少しこちらの画面のハードコピーの紙、お借りします。今、こちらでも試してみます」

神谷さんは部屋を出て、他の個人情報担当と思われる人間に二三、軽く説明する。

説明を受けた担当者が、「ええっ!?」とハードコピーの紙を食い入る様に見入ったのが、とても印象的であった。

数分後、2枚の紙を持って神谷さんは、首を左右に振りつつ戻ってきた。

「桜庭様。私も長年、個人情報漏洩の問題についていろいろと見てきましたが、ここまで酷いのは見たことはありません。おっしゃる通り、bingはPCでも携帯でもログインされてしまいます。明らかに重度の個人情報流出と認定致します」

大きな溜め息をつき、信じられないといった表情で神谷さんは着席する。

「それと、桜庭様。よく、ここまでの証拠物件を取得しておられましたね。このハードコピー画面だけでなく、メールやHPのソースまで取得される方など中々おりません」

「一応、自分も同業者みたいなものですから…」

「あ、そうなんですか。…あのよろしければ、今日お持ち頂いた資料、今後の為にこちらでコピーしたものを保管させて頂いてよろしいでしょうか？」

「ええ、構いませんよ」

「では、すいませんが、こちらの書面に印鑑を頂けませんでしょうか。お持ち頂いた資料は厳重に保管し、同様の問題に直面された消費者の方の助けに活用させて頂きたいと思っております」

神谷さんは自分がプリント・アウトした全ての資料を持ってコピー室に消えた。

部屋にひとり残された自分は思った。

先程、久慈なる男から来たメールから感じる余裕と区立消費者センターの神谷さんの反応のギャップがあまりにも大きい。

自分としてはGoogleのキャッシュに個人情報載るなんて、今まで聞いたこともないだけに神谷さんと同じ心境である。

逆に久慈なる男の余裕はどこから来ているのか？

余程強力な顧問弁護士が控えているのか？

ただの強がりなのか？

それともタダの馬鹿なのか？

コピーとファイリングを終えた神谷さんが戻ってきた。

度々の丁寧なお礼と共に自分が提出した被害届出も受理されることとなった。

「これは酷すぎます」

ハードコピー画面、メールでのやり取りを目にしつつ、そう何度も呟く神谷さんがとても印象的であった。

「桜庭様は、今後どうなさるおつもりでしょうか？」

「最悪、裁判もあり得るかと考えていますが、なるべくなら避けたところですよ。…と、いう事は示談交渉になるかと思いますが、何せ法律に関しては素人。個人情報の問題に詳しい弁護士さんを探しています。こちらで、斡旋や紹介はして頂けませんでしょうか？」

「以前は弁護士の斡旋や紹介も行っていたのですが、今は決まりがありません。…大変残念ではありますが…」

「どうやら制度が変わって弁護士の紹介は出来ないとのことである。誰の為に、何の為に、制度を改めたのかは定かではないが、とても国民の為とは思えなかった。」

代わりに東京弁護士会、東京弁護士会第一、東京弁護士会第二のパンフレットを貰う。

「随分前になるのですが、個人情報問題についてご尽力頂いた弁護士さんがこちらにいらっしやいまして、力になって頂けるかと思えます」

神谷さんはそう言って、東京弁護士会第一のパンフレットにボールペンで電話番号を書いてくれた。

「それと示談金についてですが、被害者の方が思われる以上に少ないのが現状です。過去の裁判で損害賠償支払い命令が出たものでは、京都府の宇治市の住基ネットの情報を保守業者が漏洩させた件では、

損害賠償金として1万5千円。被害者には慰謝料1万円、弁護士報酬で5千円というのが、日本国内での損害賠償最高額です。もし、示談についてご不満がございましたら、東京簡易裁判所・民事調停・支払督促部門というものがあるだけで、ご紹介させて頂きます」

損害賠償1万5千円というのは、昨日自分が調べたものと同じである。この国では賠償金が恐ろしく安いという事は既に理解している。

東京簡易裁判所・民事調停・支払督促部門：なるべくなら使いたくないところではある。

「あと、国民生活センターの方にはこちらの消費者センターから資料提供と事象報告はして頂けますでしょうか？」

自分の問いに苦虫を噛み締めるかのような表情の神谷さんが答える。

「それも決まりがあつて出来ないんです。何せ、個人情報というものはとてもデリケートなものであります、桜庭様がご自分で提出して頂くしかありません」

ここでも「決まり」。それも国民の手を煩わせる「決まり」である。

個人情報とはいえ、せつかく全国から収集した苦情のサンプルも一元化できなければ何の意味もない。

いったい誰の為の「決まり」なのだろうと閉口せざるを得なかった。

神谷さんは一旦自席に戻り、何か一枚の紙を自分に差し出してくれた。

「これは、私の直通電話になります。何かございましたら、お気軽にお電話ください。…それと国民生活センターについてですが、事前に電話予約がないと直接伺っても取り合ってもらえませんし、電話も大変混みあって大変繋がりにくくなっています」

神谷さんの直通電話の上に薄い緑色の四角い付箋紙が貼られた。

「こちらは一般には公開していない。国民生活センターの個人情報問題を扱う部署の相談窓口の電話番号です。こちらだとすぐに繋がる筈です」

いろんな「決まり」がある中、神谷さんは精一杯の事を親身になつて下さった。それだけでも心強かつたし、何よりも嬉しかった。

頂いた沢山の資料をまとめ席を立とうとする自分に神谷さんは告げる。

「桜庭様には頑張つて下さいとしか言えないのが、私としてもとても残念ですし、この問題はとても難しい問題です。弁護士でさえも避けて通る問題です。桜庭様がどこまで頑張られるのかは定かではありませんが、私も区立消費者センターのスタッフを挙げて桜庭様を応援したく思っています。今後何か動きがありましたら、随時ご報告ください。できうるアドバイスはさせて頂きます。本日は届出のご提出とご資料のご提供、まことに感謝致します」

やはり専門家でも相当難しい問題なのだなあ…と、深々と頭を下げる神谷さんの姿を見た自分はあらためて、そう思った。

いろいろと相談に乗って下さり、一般に公開されていない電話番号まで教えてくださった神谷さんには自分も丁寧に礼をし、区立消費者センターを後にする。

小奇麗で清潔感のある建物の一階まで降りると外は小雨が降っていた。

「お疲れ様でした」

警備員の声を背中に受ける。

上着のジツパーを襟元まで上げ、次の目的地に向う。

次は、警察署だ。

7・一報(2009年11月18日)

「つまり自分が何者かに襲われて、その襲った犯人が今回漏洩した個人情報から自分を知ったとまらない限り、被害届は受理されない」と、ということですか？」

警察署の生活安全課のカウンターで自分はそう聞きなおした。

自分も素人ながら刑事小説を書く身である。民事非介入という警察の基本姿勢は知っている。

民間同士のトラブルは民間同士で解決して下さいということである。

確かに想定範囲内ではあったが、何だか寂しい気分で警察署を後にした。

警察署からウチまでは、さほど遠くはない。

時間はまだ11時を少し回ったところ。

ここは一旦ウチに戻り、ある所に電話を掛けなければならなかった。

郵便受けの広告を握り掴み階段を上がる。

2階の角部屋が自分のウチだ。

握った広告は見ることもなく玄関口のゴミ箱に捨てられた。

散らかり狭く感じる6畳半の部屋に置かれたPCに電源を入れ、小雨に濡れた上着をハンガーに通し、壁の出っ張りに引っ掛ける。

やがてPCは立ち上がり、メールをチェックする。

先程、転送された久慈なる取締役の男からのメールを再度目にする。

あれ以降は何の連絡もない。

携帯に転送メールが届いていないのだから、当たり前である。

PCを立ち上げた理由は他にもある。

昨日、いろいろと調べたメモ書きが必要だったからだ。

このメモ書きこそ、真つ先にプリント・アウトしておくべきものだが、証拠物件の印字に追われ思わず忘れてしまっていた。

今日、今になってあらためてプリント・アウトする。

インクジェットのプリンターからゆっくりと弾き出された紙を引き抜き、ある箇所を探し出す。

財団法人 日本情報処理開発協会 プライバシーアイコン事務局の電話番号である。

同時に財団法人 日本情報処理開発協会 プライバシーアイコン事務局のHPを開き、受付窓口に電話をする。

数回の呼び出し音で落ち着いた口調の受付の女性が電話口に出た。

「はい。こちら財団法人 日本情報処理開発協会 プライバシーアイコン事務局受付窓口、富田と申します」

「あ、すみません。個人情報漏洩の被害に会いましてサンプルの提出と該当企業様から報告が成されているかを確認する目的で電話致しました」

「えー、失礼ですが、お名前をお教え下さい」

「桜庭潤」

「個人情報漏洩の該当企業名と個人情報管理責任者名をお願い致します」

PCの画面に開いたメーカーから企業名と個人情報管理責任者を自分は伝える。

「株式会社IPII コマース&amp;amp;テクノロジー。担当は久慈泰造」

暫らくの間があつた後、受付嬢の口が開いた。

「株式会社IPII コマース&amp;amp;テクノロジー。個人情報管理責任者は久慈泰造。…確かに本日の午前にご一報頂いております」  
「そうですか。では事象のサンプルがございますので、それと共にご報告させてもらつてもよろしいでしょうか？」

「では、今から言いますFAX番号に表紙なしで送信して下さい。

因みに枚数は？」

「画面のハードコピーの3枚になります」

プライバシーアイコン事務局はプライバシーアイコン、略してPアイコンを申請する企業を審査し認可する団体であり、付与認可した企業から発生した個人情報漏洩等のトラブルがあつた場合、報告を受理する義務がある。

「はい。確かに3枚受け取りました」

自分は事象報告をした後、富田という受付に問う。

「以上の事象報告が株式会社IPII コマース&amp;amp;テクノロジー様から、間違いなく報告されているか、お聞かせください」

富田という受付の声が急に狼狽する。

「申し訳ございません。IPII コマース&amp;amp;amp;テクノロジー様からは、個人情報の漏洩があつたとの一報があつたのみで詳細の報告はまだされておりません」

「はあ？ 一報って本当に一報で内容は全く報告していないのか？  
だったら、あの余裕あるメールは何なんだ？  
もしか、はったりか？」

「詳細の報告は、いつされる予定でしょうか？」

「個人情報管理責任者様からは午前中に詳細報告するとの旨の連絡を頂いております」

「…午前中って、もう昼前ですよ。今現在の状況はどうなっています？」

「今現在、IPII コマス&amp;amp;テクノロジー様からのご報告はございません」

呆れた。まるで宿題を忘れた小学生のようだ。

益々、自信満々のメールの意味が分からなくなってきた。

「富田さん。お手を煩わせて申し訳ございませんが、今自分が説明させて頂きました事象とIPII コマス&amp;amp;テクノロジー様からの報告内容に差異がないか、自分にご報告願えませんかでしょうか？」

若干の間の後、受付の富田さんは応えた。

「…了解致しました。桜庭様から承りました報告内容とIPII コマス&amp;amp;テクノロジー様からの報告内容に差異がない事をこちらで確認した後、桜庭様に折り返しお電話差し上げればよろしいでしょうか？」

「はい。それをお願いします」

「お電話番号はこちらで表示されている、03-XXXXX-XXXXX  
Xでよろしいでしょうか？」

「はい。それをお願いします。因みに何時頃、お電話頂けるでしょうか？」

「IPII コマース& amp ;テクノロジー様次第ではありませんが、本日中には何がしかのご連絡を差し上げるつもりであります」

「了解しました。あの、因みに：今日、報告されないって事はないですよ？ その場合、罰則とかはあるんでしょうか？」

「IPII コマース& amp ;テクノロジー様が仰っていることなので何とも申し上げられませんが、これといって罰則はございません。ですが、注意勧告は致します」

「分かりました。連絡お待ちしております」

電話を終えた自分は呆れて物も言えなかった。

自分が急に宣戦布告したものだから、今日になって場当たりの一報を出した事は間違いない。

昨日のメールにあった「手順的に、必要な措置がなされた後に報告することになっておりますので、明日、事務局には連絡する予定であります」というのは全くのハッターだったということだ。

今朝、宣戦布告メールを見た久慈なる男はたいそう驚いたことであろつ。

先手を取られまいと場当たりの一報を入れた。

今頃、急いで資料を作っているのだろうか？

全くもって、「0点」の会社である。

あ、そうだ。

あの余裕綽々を装ったメールに返信しなければ…。

Re : 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

久慈様

ご理解頂きありがとうございます。

当方と致しましては最低限のことだけでもする必要を感じ行動した  
までです。

窓口連絡する際は久慈様のお名前をお伝えさせて頂きます。

尚、24日までにご回答が頂けることを切に願います。

そして正午を迎えようとしている。

ちよっと腹ごしらえに行くとするか。

8・孤独（2009年11月18日）

午後1時を前にして自分は既にPCの前に座っていた。

目的は東京弁護士会第一。

消費者センターの神谷さんが紹介してくれた弁護士会だ。

個人情報に詳しい専門の弁護士さんに相談し、今後の行動のアド  
バイスと法的な後ろ盾になってもらうのが、目的である。

もちろんタダとは言わない。金額にもよるが、自分はそれくらい  
の心持ちでいた。

午後1時ジャスト。

タスクバーの右端がそれを伝えると同時に自分は部屋電の子機を  
手にした。

「はい。東京弁護士会第一渋谷法律相談センターです」

若い男の声だった。

多少、横柄な口調が気になる。

「あのー。個人情報に詳しい弁護士さんをご紹介頂きたく、お電話  
致しました」

自分は助けを請う身。自分なりに精一杯丁寧に、且つ明確に一声  
を放ったつもりであった。

ところが、「個人情報」という言葉を耳にした途端、横柄さが一  
気に前面に出る。

「はあ？ 個人情報？ ウチでは扱ってませんねえ」

面食らった。とても面食らった。あまりにも面食らった自分がここにいた。

弁護士会という印象と信頼が一瞬で崩れ去った瞬間である。

「個人情報漏洩被害に会いまして、ご相談したかったのですが……だからー、ウチには居ないよ。そんな弁護士い。…それ町田法律相談センターの間違いじゃないの？」

「いえ、消費者センターの相談員の方から、個人情報に詳しい弁護士さんがいらつしゃるとご紹介頂きお電話したのですが……」

「兎に角ね。お門違いなの。ウチでは個人情報問題は管轄外なんです！」

あまりにも失礼極まりない応対に自分は激怒したものの冷静な口調だけは必死に貫いた。

PC画面に開かれた東京弁護士会第一のHPを見ながら自分は言う。

「おたくのHPには『あなたにとって身近な弁護士会を目指します』とありますが、あれはまったくの嘘なのですか？」

「あのねえ。こっちも忙しいんですよ！…これ以上、続けるなら、相談料頂きます！ こっちもタダでやっている訳じゃ、ありませんから……」

自分は一旦頭を冷やす為、一呼吸置いた。

「失礼ですが、お名前を伺ってもよろしいでしょうか？」

「ええ？ 名前？ 岸……ですけどお」

「…岸さんは、弁護士資格をお持ちでしょうか？」

「持ってませんけど、…事務員ですから」

「岸さん、弁護士資格をお持ちでない方が、法律相談を有償で受け

るのは違法だと承知されての発言でしょうか？　ちなみにこの電話、録音させて頂いております」

「えええっ！？　あのねえ、これ以上、いちゃもんつけるなら、営利妨害で訴えるよお！」

「はあ？」…と自分が言う前に電話を切られた。

自分は呆気にとられた。

弁護士会ってこんなものなのか？

こんな奴らが市民の味方面しているというのか？

自分は諦めず、東京弁護士会第一の町田法律相談センターにも電話を掛けてみた。

対応は先程の岸と名乗る事務員とは程遠いものの、「個人情報の件については相応な弁護士は紹介できません」と丁重に断られる。

その後、東京弁護士会と東京弁護士会第二にも電話を試みたが、結果は変わらずだった。

「個人情報保護法についてはご相談に応じられません」

結果、個人情報に精通した弁護士は東京の弁護士会にはひとりも所属していないということが身に染みて分かった。

そういえば消費者センターの神谷さんが言っていた。

「この問題はとても難しい問題です。弁護士でさえも避けて通る問題です」

なるほど…この言葉の意味を自分はあらためて理解する。

途端に全身の力が抜けるのを自分は感じた。

思わず煙草を啜え、PC画面に吹きかける。

「お気軽に弁護士に相談できる相談センターや専門的な相談窓口のご案内です」と表記された弁護士の会のHPが霞んで見える。

個人情報保護法。

とても難しく新しい法律である為、エキスパートがまだ育まれていない。

それは、例え弁護士であっても助けしてくれず、警察であっても助けしてくれない。

結局、誰も助けしてくれない…。

だから泣き寝入りする人が後を絶たないのであろう。

煙草を燻らせPCの前で膝を抱えた自分はとてつもない孤独感に苛まれた。

9・再度（2009年11月18日）

誰も助けてくれない。

ある種の絶望感と煙草の煙が狭い6畳半の部屋を漂っていた。

自分の当初の青写真では個人情報に詳しい弁護士さんを通じて各  
省庁への個人情報漏洩のサンプルを提出するつもりでいた。

しかし、大都会、首都・東京の弁護士会には個人情報に長けた弁  
護士などいないと、弁護士会直々に言われてしまった。

「個人情報漏洩」と言った瞬間、見事に門前払いを喰らったので  
ある。

灰皿で揉み消された煙草の本数が無駄に過ぎ去る時間を刻んでい  
た。

いや！？ ちょっと、待てよ！

最早何本目かさえ分からない煙草を啜えた自分はある事に気が付  
いた。

東京中の弁護士会には個人情報保護法に長けた弁護士はいない。

…と、なると、株式会社IPII コマース&amp;テクノロジ  
ー社の顧問弁護士とやらも、どこの弁護士会に属しているかは定か  
ではないが、個人情報保護法に関しては長けていないということに  
ならないか？

個人情報保護法に関して言えば、他の法律に比べて知識の差は小  
さい…ということにならないか？

自分はあまりにも身の程知らずで、無謀にも等しいことを考え始

めた。

まあ、ある意味、逆転の発想というやつではある。

途端に自分の頭は回りだし、勇気が湧いて来た。

誰も助けてくれないのならば、自分でやるしかない。

何故なら、自分は日本国民なのだから…。

日本国憲法前文にも「主権が国民に存することを宣言」されている。

つまり国民が一番偉いと言っている訳である。例えそれが建前上であつても…。

ならば何も臆することはない。

突き進むのみだ！

俄然、力が湧いてきた。

…と、その時、無造作に転がる受話器が鳴り響く。

自分は手荒に煙草を揉み消し、子機を手に取り、電話口に出る。

「財団法人 日本情報処理開発協会 プライバシーアイコン事務局  
受付窓口の富田と申します」

プライバシーアイコン事務局の富田さんであつた。

昼前に自分が報告した個人情報漏洩の事象とIPII コマース&  
amp;テクノロジー社の報告内容に差異がないか、確認してもら  
うように頼んでおいたものだ。

「桜庭様でいらっしゃいますか？」

「ええ、そうですが…」

「桜庭様より、ご依頼頂いておりました件についてご報告の電話を差し上げました」

「お忙しい中、ありがとうございます」

「えー、IPII コマース&amp;mp;テクノロジーの久慈泰造様から再度詳細報告を頂きまして、桜庭様からご報告頂いておりました事象と相違ないことを当方で確認致しました。よって…」

午前電話した時と違い、何だかよそよそしく捲くし立てる口調の富田さんに自分は違和感を覚えた。

そして、何かが引つ掛かる。何かもつと違和感を覚える言葉がたった今、富田さんの口から発せられた気がする。

…再度。

再度…？ 再度つてどういう事だ？ 午前個人情報漏れを起こした旨の一報が久慈なる男から寄せられている。

その後、詳細報告が成されている筈だ。

それは適切とは言えないが、順当な流れではある。

何故、「再度」という言葉が「詳細報告」の前にあるのだ？

自分が感じた違和感とは、それであった。

「ちょ…ちょっと待ってください、富田さん。今『再度』と仰いましたよね？ 再度…という意味をご説明頂きたいのですが…」

自分はマニュアル通りに話し続ける富田さんを制止する。

電話口から、「しまった」という空気が伝わった。

「富田さん。…IPII コマース&amp;mp;テクノロジーからは今日の朝、個人情報漏洩があったという旨の一報があったんですよね？ その後、詳細報告もあったと思いますが、それは何時のことか？」

しょうか？」

「…正午前にIPII コマース&amp;mp・テクノロジー様から詳細報告が上がってまいりまして、最終的に詳細報告と相違ないことを、私自身が責任を持って…」

ボロが出た。「最終的に」という言葉がそれだ。

「富田さん！ 正午前という事は、自分が電話した直後ですよね？  
…結果、IPII コマース&amp;mp・テクノロジー社から、上がってきた詳細報告はいくつになるのでしょうか？ 午後にも提出していませんか？」

暫しの無言があった。

観念したかのように、富田さんが口を開く。

「…午後にも、再度詳細報告を頂いております。最終的には桜庭様のご報告と相違ないことを当方で確認しております」

「つまり、それはIPII コマース&amp;mp・テクノロジー社から詳細報告が二度あったということですよ？ それは何故でしょうか？ 当初、提出された詳細報告と自分が行った報告に差異、…相違があったのではないのでしょうか？」

暫らくの静寂の後、富田さんがゼンマイ人形のように語り始める。

「当事務局にて相違ないことを確認しております」

まったく答えになっていない。

しかし、その応答こそが今自分が言った事の信憑性を高め…いや、証明してしまった。

マニュアル通りに話す富田さんの声に自分は黙って耳を傾ける。

「…本日より2週間以内に有識者を交えた判定会議を行い、重要度8レベル以上と判定された場合は、テレビや新聞、当事務局のHPにて、国民の皆様幅広くお伝えいたします。重要度8レベル以上と判定された場合は、桜庭様にもご連絡を差し上げますが、そうでない場合はご連絡差し上げません」

突っ込みどころ満載とはこのことを言うのだろうと自分は思った。

「富田さん、順を追ってご説明願いたいのですが、よろしいでしょうか？」

「はい？」

「まず、…有識者とはどのような方が、入っておられるのですか？」

「すいませんが、お答えできません」

「そうですね…。では、判定会議が開かれる期日は教えて頂けるのでしょうか？」

「それは、お答えできません」

「会議が開かれたことも事後報告して頂けないのでしょうか？」

「それは、重要度8レベル以上と判断された時のみです」

「では、重要度8レベルとは、どういう状況の場合、そう判定されるのでしょうか？」

「すいませんが、お答えできません」

まったくの茶番だ！…と自分は思った。

「先日、通信教育のB社が個人情報漏洩事件を引き起こし、謝罪会見と共に被害者全員に感謝料を支払っています。あのB社は重要度8レベル以上だったということですね？」

「…お答えできません」

「答えられないということは、重要度8レベル以上ではなかったということですか？」

「あのB社は自発的に個人情報漏洩を公表し、会見で謝罪し、被害者に慰謝料を支払ったと考えてよろしいですね？」

「……」  
「ちなみに、過去…重要度8レベル以上と判定された企業はあるのでしょうか？」

「…お答えできません」

「富田さん、それはおかしくないですか？ 重要度8レベル以上と判定された場合は、テレビや新聞、事務局のHPにて、国民に広く伝えていくのではないのですか？ 答えられないということは、本来の趣旨に反していませんか？」

「……」  
「それとも、過去に一度も重要度8レベル以上と判定された企業などないということなのでしょうか？」

長い沈黙。

時が止まったかのような沈黙の中、自分は待ち続けた。

富田さんの応えを…。

「…兎に角、本日より2週間以内に有識者を交えた判定会議を行い、重要度8レベル以上と判定された場合は、テレビや新聞、当事務局のHPにて、国民の皆様にご伝えいたします。重要度8レベル以上と判定された場合は、桜庭様にもご連絡を差し上げますが、そうでない場合はご連絡差し上げません。その場合、これでもって最後の連絡とさせて頂きます。情報提供の程、まことにありがとうございます」

早口でマニュアル通りに捲くし立てる富田さんはそう言うや否や

電話を切った。

まるで重要度8レベル以上と判定されないと言っただような口ぶりである。

出来レース、…自分の脳裏にはその言葉しか残らなかった。

プライベートアイコンの取得は非常に難しいと言われている。

自分の知っている会社でもプライベートアイコンを取得したところがあるが、とても大変だった…と聞いている。

逆にプライベートアイコン取得を支援する企業も無数にある。

地獄の沙汰も金次第という言葉があるが、まさにそれを見た様な気がする。

ただ物凄い収穫もあった。

I P I I コマース & a m p ; テクノロジーの久慈泰造なる男は詳細報告を二度提出していると思われる。

おそらく自分が報告した内容と相違があり、指摘を受けたのである。

その相違は意図的なものだったのか、ただの誤りだったのかは定かではないが、彼らより先に手を打てたことは何よりもの収穫であった。

もし、自分が事前に報告していなかったら、どのような報告がまかり通っていたのだろうか？

今となっては知る由はないし、知る必要もない。

自分の報告通りの内容を、財団法人 日本情報処理開発協会 プライバシーアイコン事務局に提出させたことはとても大きい。

自分は珍しく自分を称えた。

そして再度、自分は立ち上がった。

10・官僚（2009年11月18日）

プライバシーアイコン事務局には何がしかの疑念は残るものの、自分が行った報告とIPII コマース&amp;mp;テクノロジー社が行った報告に相違がないことを確認し、受理してくれた。それに関しては率直に評価しなければならぬだろう。何故なら、チェック機能が働いたのだから。ただ自発的だったかどうかは、別の話ではある。

次に行くべき事…それは、各省庁への個人情報漏洩のサンプルの提出である。

当初の予定ならば、弁護士さんにお任せするつもりでいたが、東京には個人情報問題を避けて通る弁護士さんしかいない為、自分が自らの手で行わなければならなくなった。

まずは駄目もとで消費者庁の相談窓口へ電話を掛けることにする。流石に度胸がいった。

消費者庁には食品や生活用品を業態とする企業の個人情報漏洩のサンプル受理を行う義務がある。

今回の場合はIT業者の為、正確に言えば管轄外である。自分も半分は慣れる為の目的で電話報告したのであった。だから、駄目もとで十分なのである。

個人情報漏洩の事象報告をしたいと言うと案の定「総務省へ連絡して下さい」と言われた。

まあ、そりゃ、ごもつともで…。想定内の出来事ではあるが、もうちょっと話を聞いてくれてもよいのでは？…と自分は思った。

いよいよ本丸の総務省の個人情報保護相談窓口へ電話をする。  
流石の自分も相当な緊張をした。

「はい。総務省・個人情報保護相談窓口です」

やや間延びした精彩に欠ける口調の男の声であった。

「あ、すみません。個人情報漏洩の被害に会いましたので、そのサンプル報告の為に電話いたしました」

「へえ？」

明らかにうざったそうな口調が返ってきた。

「私、桜庭と申します。失礼ですが、お名前をお伺いしてよろしいでしょうか？」

「えっ？ 名前？ …高田だけど、何い？」

どこかの弁護士会と、とても類似した応対である。

東京にはこんな奴らしか居ないのであるうか？

こんな輩が官僚として、自分よりも遥かに高額な所得があるかと思つと腹ただしい限りである。しかも我々国民の税金が、そのもとなっているのだ。

「個人情報漏洩の被害に会いまして、そのサンプル報告をしたいのですが、どのようにお送りすればよろしいでしょうか？ 直接お渡しするのであれば、明日にでもお伺いしますので入館手続きの程、よろしく願ひしたく思います」

「そんなの、ここでは受け付けてないよ」

「いえ、そんなことはありません。個人情報漏洩を起こした企業は、総務省、経済産業省、消費者庁への報告義務があります」

暫らくの沈黙の後、高田という男は言った。

「あ！それねえ、プライバシーアイコン事務局ってのが、あるんだけどお…そこが担当だから」

完全に舐めきった態度である。

すかさず自分も返す。

「財団法人 日本情報処理開発協会 プライバシーアイコン事務局様には既に事象報告とサンプル提出を済ませており、個人情報漏洩として受理されております」

明らかに舌打ちをする音が受話器から伝わった。

「だったら、もういいよ！ こっちでは受け取らないことになっているから…。インターネットは担当外だから消費者庁に言ってみてよ！」

「消費者庁にはこちらに…と言われて、お電話した次第です」

またも大きな舌打ちと嗚咽。

某弁護士会の事務員をも凌ぐ態度の悪さである。

これが、官僚なのかと痛感した。

「高田さん、申し訳ありませんが、あなたの上司に変わって頂けませんか？」

「何でえ？」

「あなたは、個人情報問題に関する国民からのサンプル提出の受理義務をご存知ではなさそうです。すいませんですが、上司様が変わって頂きたく思います」

「はあ？ 何あんた？ 総務省舐めてんの？ だいたい、そんな義務ないし、上司に代わる義務もないし！ あんた、何様あ？」

「自分は日本国民です。あなたこそ、国民を馬鹿にしていますか！？ 総務省のHPのコンプライアンスにも『全ての個人情報問題は総務省の管轄であり、国民から提出されたサンプルを受理し分析した後、指導する義務がある』と明記されています！」

自分は総務省のHPを開きながら、目に付いた言葉を並べたてて必死に抵抗した。

「コンプライアンスなんて何の法的根拠もないの。そんなの守る義務もないし……」

電話口の向こうで受話器を奪う音がした。

「ま、誠に申し訳ございません。あらためてこちらから、お電話差し上げますので、今日のところはお引取り下さい」

おそらく異変に気付いた上司か同僚なのであろう。

高田という男は電話を奪われ、叱責される声が漏れ伝わる中、電話は切れた。

自分は子機の受話器を静かに戻し、煙草に火を点けた。

これが、日本の官僚か……。

こんな奴らが日本を動かしているというのか……。

かねてから問題有りだとは方々から聞いてはいたが、ここまで酷いとは思わなかった。

日本という国を蝕んでいる元凶を見事に垣間見てしまった。

その直後、経済産業省にも同じ旨の連絡をしたが、結果は同じである。

結局、個人情報漏洩のサンプルはどの省庁にも受理されなかった。

自分はゆっくりと煙を吐き出しつつ、思わず呟いた。

そりゃ、官僚改革とか言われるのも分かるわな…。

でも、…やはり弁護士が居なければ、ただの無力な一国民ではないのだろうか。

自分は自分の無力さを痛感した。

11・助力(2009年11月18日)

総務省からの連絡はない。

きつと、それもお役所たる所以であろう。

おそらく今日総務省からの連絡はないだろう。

そして、今日自分が出来ることもないだろう。

煙草を揉み消した筒状の灰皿に重みを感じる。

その手の先を見やると、区立消費者センターの神谷さんの直通電話の番号が書かれた紙の片隅に貼られた薄い緑色の四角い付箋紙が目にとまった。

一般公開されていない国民生活センターの個人情報問題を扱う部門の直通電話番号である。

自分は付箋紙が貼られた紙を手繰り寄せ、電話番号を見入る。

最後に挨拶がてら電話してみるとするか…。  
ひよつとしたら、価値はあるかもしれない。

自分は充電もままならない子機を手に取り、番号を押した。

「はい。国民生活センター・個人情報相談窓口、水口です」

「あ、すみません。個人情報漏洩の被害にあいまして、ご相談の電話を差し上げました」

「えー。個人情報漏洩とのことですが、それはどのような形で漏れたのか、ご説明頂けますでしょうか？」

「ネットの検索サイトのクローリングに自分の個人情報が載ってしまいました」

「ネ…ネットの検索エンジンにですか？」

「はい。Googleのキャッシュに漏洩しました」

「しょ、少々お待ちください。担当の者に替わります」

受付の男性もただの受付ではなく、相談員なのである。

「Googleのキャッシュに」と言つや否や声質が変わった。

待ち受けの曲が流れて久しい。

相当難しい問題なのだろう。あまりの出来事に狼狽しているのだろうか？

待ち受けのオルゴール曲が突如止み、はきはきとした女性の声が響いた。

「大変お待たせ致しまして申し訳ございません。私、相談員の長谷部と申します。…失礼ですが、お名前をお聞きしてもよろしいでしょうか？」

「桜庭潤と申します」

「えー、桜庭様。こちらはご本名になりますでしょうか？」

「はい。本名でございます」

ややこもってはいるが、澁刺とはつきりとした声であった。

この人は信用できるかもしれない。

自分は直感的にそう思った。

「桜庭様。因みにこの電話番号はどなた様からご紹介頂いたのですか？」

「区立消費者センターの神谷様からご紹介頂きました」

「そうでございますか。で…何でもGoogleの検索キャッシュ

に個人情報漏洩したとのことですが…」

「あ、証拠物件：サンプルを個人的に取得しておりますので、こちら様にFAX送信しても構いませんでしょうか？」

「証拠物件と申しますと？」

「PC画面のハードコピーや先方の担当者とのメール、HPのソース等になります」

「え？ その様なサンプルをお持ち下さったのですか？ 大変感謝致します。全部で何部になりますでしょうか？」

「えーと、…全部で、28枚になります」

「あー、大変申し訳ありませんが、表紙なしで構いませんので、今から申します番号にFAXしていただけませんでしょうか？ こちらで確認し次第、折り返しお電話差し上げます。では、一旦失礼させていただきます」

Googleのキャッシュに対する食いつき方が尋常ではなかった。

ネットに対する知識も豊富そうである。

自分は切れた受話器を電源台に乗せ、証拠物件28枚をFAX送信する。

所詮は家庭用のFAX付き電話である。業務用ほどの速度はない一枚一枚ゆっくりと送信される様を眺めながら、煙草に火を点した。

28枚全てを送信し終わり、部屋の真ん中にあるこたつ机で煙草を燻らせた。

待てども待てども、電話は来ない。

それだけ価値のある物的証拠だったのか？

それとも、ただのお役所仕事なのか？

待ちきれなくなった自分は、昼に買ってきたペプシを開ける。

ちびちびとペプシ・コーラを飲みながら、ひたすら電話を待ち続ける。

時間にして、約20分。

折り返しのFAX受領連絡の割には、非常識なくらい待たされた。

鳴り響く電話に出た。

国民生活センターの長谷部さんである。

「非常にお待たせ致しまして、大変申し訳ございません。28部確かに受け取りました。こちらの物件は今後の活動の為に十分活用させて頂きます。万全を帰して管理もしてまいりますので、ご安心ください」

「あ、はい。お役に立てて、光栄です」

「それにしても桜庭様。よくここまでの証拠物件をお集めになりましたね」

「まあ、自分も同業者みたいなもんですから…」

「そうでございましたか…。因みに頂きましたサンプル、他にもご提示されていらっしゃるのでしょうか？」

「えーと、区立消費者センターにも全く同じものをコピーでお渡ししています。プライバシーアイコン事務局には画面のハードコピーの3枚だけを提出しました」

「…と申しますと、今日私どものところ以外にも、ご提出なさった訳でありますね。それはとても賢明な措置です。情報を複数の箇所に提示することは、とても重要なことです」

自分は今日行った事。起こった事。報告した事。…全てを、順を追って説明した。

「そうでございましたか。桜庭様はご相談の目的で国民生活センタ

「にご連絡頂きましたが、私どもの方からアドバイスすることは、  
ございません。持っていらっしやる個人情報保護法に対する知識も  
含めまして、完璧な対応をとられていると思います。ここまで個人  
でなされる方はなかなかおりません。私どもも大変勉強になりました。  
ありがとうございます」

プロ、専門家に褒められた。

確かに昨夜、それなりに動きを張り巡らせはしたが、殆んどが衝  
動的な行動である。

結果的に有効な行動であったという褒め言葉は素直に受け止め、  
心に留めておこう。

「弁護士会の受付の方は当たり外れと申しましようか、人によつて  
の落差が激しいもので、よく寄せられる苦情のひとつです。桜庭様  
からの苦情という事で国民生活センターの方から弁護士会へ正式に  
警告させて頂きます」

国民生活センターはこういった苦情も受け付けているんだと初め  
て知った。

「あと、総務省の件も完全なコンプライアンス違反でありまして、  
サンプル受理拒否は規定違反になります。経済産業省と消費者庁も  
含めまして、今桜庭様から頂きましたものを国民生活センターから  
個人情報漏洩のサンプルとして、提出させて頂きます。…あと、総  
務省には苦情も添えておきます」

頼もしい。

自分は率直にそう思った。

今日一日張り詰めた気持ち初めて緩んだ瞬間かもしれない。

電話してよかった。

「ありがとうございます。後はよろしくお願い致します」

自分はそう言うのが精一杯であった。

「…それにしても、桜庭様。今日、ご報告いただきました個人情報漏洩の件についてですが、私もここまで酷いものは見たことも聞いたこともございません。まさに前代未聞の最大級の個人情報漏洩事件だと認識しております」

やはりここでもそうか。

国民生活センターでもそういう認識なのか。

「それと、今回情報漏洩を起こしましたI P I コマース& a m p ;テクノロジーという企業はPアイコンを取得されている割には、個人情報取り扱いには少々疎く、内容は申し上げられませんが度々トラブルを起しております」

なるほどI P I コマース& a m p ;テクノロジー社は個人情報の取り扱いには疎く前科もあると…。

それならば、昨日までの久慈なる男の行動にも納得がいく。

やはり朝送ってきた余裕綽々のメールはハッターだったのか。

その可能性は更に高くなった。

「桜庭様からご提示頂きました今回の件、国民生活センターと致しましても過去に例のない最大級の個人情報漏洩事件として、正式に受理し今後も対応に当たらせて頂きます」

今の自分にとって、最も心強い言葉を言って貰えた。

「今から申し上げる電話番号は、私、長谷部への直通電話です。何か動きがありましたら、すぐにもご連絡ください」

自分は薄い緑色の付箋紙の端っこに、今言われた電話番号を書き記した。

「メールを見る限り、24日以降には何らかの回答をするとあります。取り敢えずは相手の回答を待ちましょう。回答が来ましたらすぐお電話下さい」

とても心強かった。

今日、たったひとりで頑張ってきたことを背中から後押ししてくれる多大な力を感じた。

自分はこれ以上ないくらい礼を言って、電話を切った。

今日、がむしゃらに動き回ったことはけして無駄ではなかった。今後どうなるかは分からないが、やれるだけの事はやった。

タスクバーの右端に目を向けると6時半を回っている。

途端、空腹感に見舞われた。

何だか大盛りのラーメンと炒飯が食べたい気分であった。

自分は熱を発し続けたPCの電源を切り、部屋の灯りも消して外出した。

一日中降り続いた小雨は既に止んでいる。

空腹感に耐えかねた自分は早足で行きつけの中華屋に向った。

12・来訪(2009年11月18日)

食った食った。

流石に大盛りのラーメンと炒飯を平らげたとあって、自分の腹はパンパンであった。

とはいえ、コンビニ袋を片手に提げているのはご愛嬌である。

階段をゆつくりと上がり、一番奥の自分の部屋に向かう。

すると扉の前に立掛けられている何やら小荷物らしきものが目に入った。

ネットで何か注文してたっけ？

しかし自分には全く思い当たる節がない。

部屋の鍵を取り出しつつ、扉の前にしゃがみ込んだ自分は小荷物を確認する。

どうやら洋菓子の詰め合せの様である。

立掛けられた菓子折りと薄汚れた扉に挟まれるクリアファイルが目止まった。

クリアファイルをやや手荒に引き抜き、左上にゼミクリップで留められた名刺に目をやる。

大きく「IPIE」との目立つロゴの下に書かれた役職と名前を確認した。

「取締役 営業・管理本部 担当」

「久慈 泰造」

自分は携帯を一旦開き、久慈なる男からの転送メールがないこと

を確認した。

奴は来た！

自分が部屋を空けた僅か1時間弱の間に訪ねて来ていた。  
しかも事前連絡、アポなしでやって来たのだ。

名刺の脇に手書きのメッセージがある。

「桜庭様 11/18」

「本日、お詫びも兼ねまして、報告資料をお持ちさせていただきました。  
」

「本当に申し分けございませんでした。」  
「今後もよろしく願います」

きっと、上司に言われ慌ててやって来たのであろう。

朝の余裕綽々のメールから大きく一転した文章である。

初めて「お詫び」という言葉も使っている。

あまりの変貌振りに流石の自分も驚いた。

しかし、久慈なる男は気付いていない。

きしくも自らの身で持って、個人情報漏洩するとどういった問題が起こりえるかという事を証明してしまっていることを……。

届けられる物が何も菓子折りと謝罪文らしきものとは限らない。

爆弾小包と脅迫文だってあり得るのだ。

おそらく久慈なる男はそれにすら気付かず、アポなしで自分の部屋に来てしまった。

しかも自分が居ない僅か1時間弱の間にだ。

つくづくタイミングを逸した間抜けとしか言い様がないが、誠意を見せようと必死なのはよく分かった。

名刺の右下にこれでもかと威張るプライバシーアイコンが妙に寂しく見える。

自分はコンビニ袋と菓子折り、クリアファイルを左脇に抱え鍵を握り、扉を開けた。

日中の小雨の影響であろうか、夜風が冷たい。

部屋に戻った自分は菓子折りとクリアファイルをこたつ机に置き、書類を引き抜いた。

真つ先に目に付いたのは、書類に押された社判である。

社判を押すということは、その企業にとって正式で公式な文書であることを認めている。

それが何よりも驚きであった。

2009年11月

株式会社IPI コマー&amp;テクノロジー

個人情報管理責任者 取締役 久慈 泰造

東京都 区中央1-22-3 xxxビル16階

TEL:03-xxxxx-xxxx

ミッドサイド個人情報漏洩に関する報告資料等について

拝啓、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素はご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度は、桜庭様の個人情報を弊社の管理ミスにより漏洩させてしまい大変申し訳ございませんでした。謹んでお詫び申し上げます。

google等の検索エンジンのキャッシュ削除を行う作業等、漏洩した情報を削除する作業はこれまでメールにてご報告させていただいた通りでございますが、本日は、その作業履歴を含めた「(財)日本情報処理開発協会プライバシーアイコン事務局」宛に報告させていただいた下記の書類一式をお持ちさせていただきました。(なお、弊社の監督官庁である経済産業省への報告は日本情報処理開発協会経由で報告されるとの事です。総務省には弊社より報告を行い、総務省管轄かどうか判断を待つております。)

また、今後同様の事が起こらないように、何故起こった、再度起こらないようにする為にはどうしたらよいかを記載しました「是正・予防処置」も同封させていただきましたいております。

桜庭様から当初ご要望を受けた事項の「?ミッドサイドへのお詫びの掲載」「?損害賠償について」はまだ対応が出来ておりませんが、準備が整い次第?については掲載するとともに、?についても弊社顧問弁護士との協議が終わり次第ご連絡させていただきます。

以上、今後もミッドサイドを今後もお引き立て賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

本日お持ちさせていただきました資料

- ・ 個人情報事故発生報告書
- ・ プライバシーアイコンプロジェクト検討結果
- ・ ミッドサイド個人情報対応
- ・ 画面ハードコピー2通

以上

1行目の「時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます」が適切な表現かどうかはさておき、間違いなく謝罪文である。

朝までの余裕綽々のメールは何だったのだろうと本気で疑わざるを得なかった。

これはあくまで自分の予想の範疇でしかないが、「財団法人 日本情報処理開発協会 プライバシーアイコン事務局」宛にIPII コマース&amp;テクノロジー社より先に詳細報告したのが効いたと思われる。

あとは国民生活センターを通じて提出した各省庁への報告も少なからず影響があったことも間違いない。

しかし急変とも言える低姿勢ぶりが逆に恐ろしくすら感じる。

同封されている「個人情報事故発生報告書（経過）」に目を通す。書面作成の日付と時間が「2009/11/17 20時45分」になっているのが、とても疑わしい。

何故なら「対処状況」に「4.11/17（火） 20:45頃 MSNのキャッシュは現時点でも削除されていないことを確認」との一文があるからだ。

約1分でこの報告書を作成したとはとても思えない。

確証はないが、この書面の作成日付と時間は信用に値しない。

更に、影響度についての報告がとても疑わしく思えた。

「ミッドサイドのユーザー登録者は15,672件（11/16時点）。その中で住所フィールドがnullで無いデータが490件。

その中で実際に存在する住所の記載があったデータは4件。その中で検索エンジンにてヒットしたデータは2件。よって、ミッドサイド本体の対策を講じるまでに漏洩したデータは4件で、対策後も検索エンジンのキャッシュに残り漏洩したデータは4件中2件となる。(15日に連絡をいただいた方が2件の中の一人)

あくまでミッドサイド内部でのデータなので、その真偽は確かめようもないが、これはあんまりじゃないかと思った。

影響2件で、…あまりにも少なすぎる。

そして、注意深く読むと「住所」に限った調査結果でしかなく、「本名」「性別」「年齢」「誕生日」での調査結果は一切報告されていない。過少報告との疑念は拭い去れないのだ。

しかし、ここに同封されているということはプライバシーアイコン事務局は受理し、何の突っ込みもなかったということである。

自分なら真っ先に突っ込むところではあるが、残念ながらプライバシーアイコン事務局は見事に見逃している。わざととか、そうではないとかは問題ではない。

素人の自分ですら気付く大きな突込みどころを完全にスルーしている。

そんな彼らがプライバシーアイコンの取得企業の審査を行うに相応しいのか、甚だ疑問である。

あと、とても気に入らないのが「ミッドサイドのユーザー登録者は15,672件」のくだりである。単位が「人」ではなく「件」であるのが、とても悲しかった。

所詮、自分を含めたユーザーは「人」ではなく、データ件数の1件でしかない。広告収入に影響する「件数」でしかないのだ。

そう考えると、昨日までのIPII コマース&amp;テクノロジー社の対応にも随分と納得がいく。

たかがデータ件数でしかないのだから。

事故内容も概ね間違いはなく、ユーザー登録後の「マイページ」がGoogle等の検索サイトのクローリング対象になっていたことは認めている。

しかし、誰でもログイン可能で登録ユーザーの成りすましについては全く触れられていない。

その件については、自分の口からプライバシーアイコン事務局の富田という女性に報告している筈であるが、ノータッチである。

やはり、先に結果ありきの報告と審査なのであるうか？

富田さんとの最後のやり取りで感じた「出来レース」は間違いなのだろうか？

その後、「プライバシーアイコンプロジェクト検討結果」という先程の「個人情報事故発生報告書（結果）」を更に簡潔にした文書がある。

特筆すべきことは、「坂本信子」というPアイコン担当の新たな名前が出てきたことと、社長の承認署名があることであろう。

「宮沢博」。確か、どこかのWebマガジンで目にした名前である。ただ印鑑が社長の割には妙に安っぽい三文判なのが気になる。

「ミッドサイド個人情報」は実際に行った作業内容を時系列に報告したテキスト・ファイルのコピーである。

対処を開始したのは「2009/11/16 14:22」となっている。

やはり返信メールを送った後からしか、作業を始めていなかった。内容は一部メールにも記載があったもので、sitemap.xmlの内容やクローラの到着時間等が表記されているに過ぎない。

まあ、bingのクローラがsitemap.xmlを拾わない

苦勞が手に取るように分かりはした。

画面ハードコピー2通は、更に何てことはない。  
ユーザー登録のフォームを変更したということではかない。  
あと収穫があるとすれば、久慈なる男の年齢が分かったことぐら  
いである。

随分と自分より年上であった。

予想以上に何て事のない資料だと思った。

この程度のもので丸く収まるのなら、随分楽だと思う。

普段、自分が作成している不具合報告書の方がよっぽど良く出来  
た資料だと我ながら思った。

携帯が突如鳴った。

久慈なる男からメールが来た合図である。

携帯を開き、転送メールを見る。

2009年11月18日 19:58

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭様

お世話になります。IP Eコマース&テクノロジーの久慈です。

本日、日本情報処理開発協会プライバシーアイコン事務局に  
報告書類を提出させていただきました。

その書類のコピーを桜庭様にも、ご確認いただく為にお渡ししなければと思い、ご送付しようと考えておりましたが、会社から近いこともありましたので、お詫びも兼ねてお伺いした方が良いと思い、ご自宅にお伺いさせていただきます。

事前にご連絡もせず大変申し訳ございませんでした。

同封の書類に書かせていただきました、残件の対応は24日  
までには間違いなく回答させていただきます。

以上、よろしくお願いします。

株式会社IPI コマス&amp;テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxxxx-xxxxxx(代表) 03-xxxxxx-xxxxxx  
(管理本部)

久慈 泰造 dkujii@IPI.co.jp

何とも能天気なメールである。

個人情報漏洩するとどうなるか?…という実験を見事に体現してくれたお礼に嫌味のひとつでもメールしてやるうかとも思ったが、あまりに緊張感のないメールにほとほと力が抜けた。PCを立ち上

げる気力さえも失った。

明日は予定が入っている。

朝10時に顧客の所に顔を出さねばならない。

この能天気くんは放っておいて、今夜はノンビリしようと思う。

それにしても、今日一日よく動き回ったと思う。

物理的に駆けずり回った訳ではないが、まともな人間ならば避けて通る道を思いっきり直進した感覚である。

風呂上りにコンビニで買ってきた缶ビールを開け、一息ついた。

煙草の煙をゆっくりと吐き出し、物思いに耽る。

ホント自分で馬鹿だよなあ…と、つくづく思った。

「残件の対応は24日までには間違いなく回答させていただきます」

今は、その言葉を信じるしかないか…。

こみ上げるゲップを心地よく感じた。

13・暗闘（2009年11月19日）

今日は現場に出なければならぬ。

スーツって、数日着ないだけで次に着る時が億劫になる。

ネクタイも何だか苦しい。

久慈なる男は昨夜、突如やって来た。

生憎、自分が留守であった為、結局顔を合わせることはなかった。

こちらにも都合や生活というものがある。

せめてアポ、事前に連絡を貰っていたならば待機していた。

しかし、個人情報管理責任者を名乗る方が、それも個人情報漏洩被害者に対して、自身の運営するサイトで管理する個人情報でもって、突然やって来たのだから、呆れて物も言えない。

この久慈なる男自らが個人情報漏洩の恐ろしさを見事に知らしめてしまった。

果たして、本人にその自覚はあるのだろうか？

添付されたメッセージや、その後送られて来たメールを見る限り、全くの無自覚のようである。

正直、無自覚にも程がある。おめでたいとはこのことか？

だからと言って、自分は彼に無礼をはたらくつもりはない。

最低限の礼節だけは通させてもらうが、最低限言うべきことも言わせてもらう。

2009年11月19日 9:19

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

久慈様

昨日はわざわざお出向きいただきありがとうございます。生憎、在宅しておりませんので申し訳ございません。

- < 本日、日本情報処理開発協会プライバシーアイコン事務局に
- < 報告書類を提出させていただきました。
- < その書類のコピーを桜庭様にも、ご確認いただく為

書類の方は確認させて頂きました。

何点か気になる箇所がありましたのでお知らせ申し上げます。

1. 「プロフィールを編集」の文言について
  - 「ここから下で登録した内容は全て公開されます」とありますが「全て」でなく「インターネット全体に」と明確にした方が良いと思います。
  - 「全て」だと「インサイド内全て」と誤解を招きます。

2. 個人情報の入力の意味について

そもそもこの「プロフィールの編集」にて個人情報を入力させる意義がわかりません。

入力させるのであれば「ユーザー登録情報を編集」の方でよろしいのではないのでしょうか？。

そちらであれば「非公開」をうたっておりますので、よりユーザ

ーフレンドリーだと思われます。

### 3. プロフィール編集のページについて

このページで入力する項目は全て会員ユーザー以外には基本的に非公開にすべきです。

あと、項目によっては会員であろうともユーザーの意思なしに公開してはいけない項目もあります。

「本名」「誕生日」「E-MAIL」「性別」「年齢」「誕生日」「国」「住所」、各メッセンジャーIDなどがそれに該当するかと思いません。

### 4. 「個人情報事故発生報告書（経過）」及び「プライバシーコンプロジェクト検討結果」について

上記1. により？なぜ発生したか？の欄に上記1. の様な事象と自動的にログインできてしまう件を加える必要がある。

同じく是正・予防処置報告書の？不適合・望ましくない状況の原因にも同様の記述が必要である。

以上、当方からの指摘事項とさせていただきます。

以後、ご対応の程よろしくお願い致します。

出勤直前にメールした。

影響件数については、いずれ顔を直接突き合わせた時に言った方が効果的であろうと思った為、敢えてこのメールには書かなかった。

2009年11月19日 15:07

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭様

お世話になります。IPI-CT久慈です。

ご連絡の方ありがとうございました。  
ご指摘いただきました内容につき、弊社内で検討させていただきます。

取り急ぎお礼まで。

以上、よろしく申し上げます。

-----  
株式会社IPI コマス&amp;テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxx-xxxx(代表) 03-xxxx-xxxx  
(管理本部)  
-----  
久慈 泰造 dkujj@IPI.co.jp

当たり障りのない返信である。

それにしても、メールアドレスから何時「Re:」が消えるのだらう？

今日は顧客先に出る為、久慈なる男からのメール転送は止めていた。

帰宅後にPCを開いた為、メールが溜まっている。

もう一通気になるメールが届いていた。

2009年11月19日 19:09

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭様

お世話になります。IPイコマス&テクノロジーの久慈です。1点ご確認させていただきたい事項ありましてメールさせていただきます。

もし今般の事故に基き桜庭様に何か具体的な二次被害などございましたでしょうか。

- ・覚えの無いDMが届くようになった。
- ・何かのサイトに氏名、住所が公表されてしまった。等々

本来は真っ先にご確認させていただき、事実がございましたら弊社側で何らかの対処をさせていただく事項なのですが、この時期にお聞きすることになり申し訳ありません。

以上、よろしくお願いします。

- - - - -  
株式会社IPI コマー&amp;テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxx-xxxx(代表) 03-xxxx-xxxx  
管理本部)

- - - - -  
久慈 泰造 dkujii@IPI.co.jp

「本来は真つ先にご確認させていただき、事実がございましたら弊社側で何らかの対処をさせていただく事項なのですが、この時期にお聞きすることになり申し訳ありません。」

まったくその通りである。

今まで全く聞いてこなかったことの方が不思議でならない。

「覚えの無いDMが届くようになった。」

「何かのサイトに氏名、住所が公表されてしまった。等々」

まあ、これ以外にも真つ先に確認しなければならぬ事項は他にもある筈なのだが、それも顔をあわせた時に聞いてみるとしよう。

しかし明らかに「書かされている」メールである。

おそらく顧問弁護士の指示で書いたメールなのであろう。

文章がガタガタである。何だか日本語が変だ。

しかし無礼のないようにこちらも返信する。

2009年11月19日 21:00

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

久慈様

お世話になります。

具体的な二次被害としては、DMぐらいです。

消費者金融や借金返済の相談を促すもの、架空請求のDMが届いたことはあります。

サイトでの氏名、住所の公表は今のところありません。

以上、ご報告とさせていただきます。

ようやく「二次被害」という言葉が出てきた。

個人情報漏洩そのものが一次被害であり、その洩れた情報から出た何らかの被害のことを二次被害という。

メールにもあるように、DMなどがその二次被害の代表格である。更に誘拐・傷害などの事件が発生した場合は三次被害となる。

昨日、警察署を訪れた時に言われたのが、三次被害である。正直、

ここまで明確になることは現実的に考えられない。

顧問弁護士の影がちらつきだした。

いよいよ、腹の探り合いの始まりである。

14・賞賛（2009年11月20日）

まったく、この業界は予定がたたない。

昨日はあれ程スムーズに動作していたのに、朝のシステム起動でトラブルが発生。

早朝から呼び出しを喰らい、客先に出向いている。

こつこつ現場はまさに修羅場であった。

午前9時のオンライン開始までに何とかしなければならぬ。

携帯の時計を見ると7時15分。もう2時間もない。

現状を聞くと、あるラインのプログラムが異常終了し、出力ファイルが作成されない。

他のラインは正常に終了しており、その異常終了したプログラムさえ正常に終了すれば後続の処理は流れる。

ただ問題は後続の処理が正常に終了するまでに、30分以上を要することだ。

何せ今日は「こつこつ」。企業の支払いや締め切りが集中し、いつもより扱うデータ量が遥かに多い。

通常だと20分もあれば終わるところだが、今日は30分以上を見積もっておかないと、9時の業務開始までに間に合わない。

…となると8時30分には処理を開始していなければならぬということだ。

実作業時間として1時間もないことになる。

原因を究明し、1時間で修正方法もしくは回避策を考え出さねばならない。

スタッフ総がかりで原因の究明に当たる。

当初はデータベースがフローズし、タイムアウトしたものだと思われたが、そうではない。

ログ・ファイルに読み込んだデータベースの名前がないからだ。

同じデータベースを読み込んでいる他処理が正常終了しているの

だから、原因は他にある。

最も疑うべきはデータ量の多さだ。

データ量が多すぎてファイルを作るスペースが確保されていない。しかし、エリア確保はされている。正常に終了さえすれば、何の問題もない。

7時45分。原因は未だ解らない。

リミットまであと30分。

プログラムの記述を追う者、データベースの動きを追う者、CPUの稼働率を追う者、設計書の内容を追う者、皆が必死に動き続ける。

CPUの稼働率に異常がなかったことを確認した自分は、ふと設計書を見やる。

すると他の処理と明らかに異なる処理である事に気付く。

PCの画面から起動開始との命令を受けて処理が動き始めるのだが、異常を起したプログラムだけはその命令を直に受けていた。他のラインもその命令を受けているのだが、受け取り方が若干違う。命令電文と呼ばれるものを内部処理で変換し受け取っていた。

異常を起したプログラムだけは画面から出力された電文をウィンドウズの共通処理ライブラリ、所謂d111ファイルを通して受け取っている。

d111の出力が怪しい。d111にテスト用の電文を投げてみた。

d111は正常に終了した。

しかし出力結果がおかしい。開始命令が記述された位置が6バイトずれている。

昨日は何の問題もなかった。今日になって処理結果が異なるのは変だ。

d111の日付を見ると2009年11月20日になっている。どうやら日付が変わり、自動アップデートされたらしい。それで処理結果が昨日と異なる。辻褄は合う。

時間は8時前。プログラム自体に問題はない。d111に問題があ

った。

バックアップからd111ファイルを昨日までのものに戻そうかと思っただが、リコンパイルに時間がかかるのと、他の処理に悪影響をきたす可能性があるので取りやめることに。

仕方ない出力結果の6バイトを削るといふ強硬措置を施すことにする。6バイト分削る処理を追加すれば他の処理にも影響はない。時間にも間に合う。

即席で処理を追加し、異常終了しているプログラムを再実行させた。

数分後、正常に終了し、後続処理が動き始めた。

携帯を見ると8時15分前だった。何とか間に合いそうである。

業務開始までに同じd111ファイルを使用している箇所が他にないか探すように指示を出す。

案の定あった。その箇所には、同様に6バイト分削る処理を追加するよう重ねて指示を出し、チームリーダーに報告した。

「今日は取り敢えず、これで逃げましょう。業務終了後にd111ファイルに戻して、リコンパイル。マイクロソフトにも問い合わせてみましょう。本格対応はその後で…」

チームリーダーにも承認され、自分の仕事は終わった。

コンビニに行って、コーヒーと何か食べるものを買ってこよう。

自分はこういう時、何故かナポリタンが食べたくなる。

そして、仮眠が欲しかった。

その後、何もトラブルが起きなければの話だが…。

幸いにして、その後は順調に動いた。

携帯を覗くと12時前を示していた。

自分の役目はここまで、皆で昼食をとる前に帰ることにした。

行かなければならない所があるからだ。

自分は軽く挨拶し現場を後にした。

自分はこういった仕事をしている。

ここで言っているデータとは、まさに顧客情報のこと。

その為、個人情報の取り扱いについては普段から慎重にならざるを得ない。

今回の自分の個人情報漏洩事件にて比較的冷静に対処できているのは、この様な職種に就いていたことがとても幸いしている。

電車に揺られる事、約40分。

自分は駅構内を出て、携帯を見る。

12時45分。

ちよつと着くのが早かったようだ。

目に付いた牛丼屋に向うことにする。

満足げに牛丼屋を出て向った先は区立消費者センター。

一昨日の夜、久慈なる男が突如として持ってきた書類一式を消費者センターの神谷さんに報告する為である。

白を基調としたカウンターに座るまでもなく、受付の女性が声をかけてきた。

「神谷さんをお願いします」とだけ言うと、奥から神谷さんが姿を現した。

先日は普段着、今日はスーツであったせいであろうか、最初は誰か判らなかつた様であったが、間近に迫ると判別が出来たようである。

「ああ！ 桜庭様！…何か、動き…ありましたか？」

「はい。それをご報告に参りました」

すると例によって別室に通された。

「今日はお仕事ですか？」

神谷さんは自分のスーツ姿に質問を投げかけてきた。

「ええ。今日は午前中、仕事でした。…けど、午前中に切り上げまして、こちらに来ました」

「それはどうもどうも。…で、動きとは？」

「…昨日の夜、ＩＰＩコマース&テクノロジー社の個人情報管理責任者の久慈様がこの書類をお持ち下さいました。生憎、外出しておりまして、部屋の扉に菓子折りと一緒に立掛けてありました」

「ええ！？ それは何と！」

そう言った神谷さんは一心不乱に書類に目を通し始めた。

暫らく経って神谷さんは驚きの声をあげた。

「桜庭様！ これは、凄いです！…先日までの企業の態度を180度改めた列記とした謝罪文です。しかも社長の署名まで添えられた文書など、私も見たことはありません。二三気になる箇所はございますが、企業側の誠意ととらえても良いかと思えます。…桜庭様、いったいどのように、なされたのですか？」

自分は一昨日、消費者センターを後にしてからの行動を順に説明した。

その度に真剣な眼差しで頷く神谷さんが、とても印象的であった。

「…そうですか、弁護士をお付けにならずに、お一人でそこまでな

さる方など見たことありません。寧ろ、こちらが勉強させて頂いている心境です。…それに、弁護士会も様変わりしましたね。ご紹介した身と致しましては、桜庭様にご迷惑をお掛けした事になり、申し訳ありませんでした」

深々と頭を下げる神谷さん。

「いえいえ、神谷さんのお陰で、いろんな手が打てたと感謝しております。ご紹介頂きました国民生活センターの皆さんにも親切にして頂き、大変助かりました。ありがとうございました」

「そう言って頂けると私も励みになります。…ところで、この被害報告人数や対応策につきましては、まだ問題があるかと思えます。被害報告人数が少なすぎる様に思いますし、調査の方法にも偏りが見受けられます」

そう自分も気になっていた調査結果の箇所である。あくまで「住所」に限った調査結果でしかなく、「本名」「性別」「年齢」「誕生日」での調査結果は一切報告されていない。

神谷さんも過少報告との疑念を持っているようである。

「この数字は我々には確かめようもない数字です。ちょっとあまりにも少な過ぎると思いますが、これを信じるしかありませんね」

「そこは自分も気になっています。いずれ会う機会があると思いますので、その時間いてみようかと思っています」

「そうですね。おそらく顧問弁護士が仲介と言いますが、メインとなって話を進めると思いますが、頑張ってくださいとしか言いようがありません。…それと、こちらの書類もコピーさせて頂いてよろしいでしょうか?」

自分は「どうぞ。その為を持って来ました」と答えた。

区立消費者センターを後にした自分は初めて知らされた。久慈なる男が持ってきた書類は専門家からすると考えられない物凄いいものであるということらしい。被害者であり、素人である自分には、未だ理解できないことである。

自分は帰宅し、堅苦しいスーツから部屋着のジャージに着がえた。煙草を一本吸い落ち着いたところで、国民生活センターに電話してみることにする。

先日、教えてもらった長谷部さんの直通電話に掛けてみた。

「はい。国民生活センター、長谷部です」

「あ、もしもし。先日、個人情報漏洩でご相談させて頂きました桜庭です」

「ああ、桜庭様。何か、進展はございましたか？」

「はい。書類が届きました。Pアイコン事務局に提出したと思われる書類が届きました」

「それは郵送で、…ですか？」

「いえ、アポなしで直接お持ち下さいました。生憎、外出しておりましたもので、直接会うことはできませんでしたが…」

「あのう。またFAXして頂いてよろしいでしょうか？」

勿論、自分はそのつもりで電話したのだから、快くFAXした。また暫らく待たされた後、電話が鳴る。

「長谷部です。桜庭様、よくぞこの様な書類をご提供頂きました感謝いたします」

「あのー、これって…そんなに凄い書類なのでしょうか？」

「はい。訴訟を起こしても、この様な企業機密に関わる書類は出ま

せん。しかも、社長の署名付きです。個人情報問題に関してここまでの書類が企業側から出た前例はありません。桜庭様のとられた行動、メールの文面、連絡をとった機関と要望とタイミング…全てにおいて適切且つ無駄がなく、専門家の我々でもここまで完璧にアドバイスは出来ません。大変、勉強になりました」

「ああ、そうなんですか…」

「ええ、個人でここまでされる方は、なかなかおりません。自信を持って頂いて構わない結果だと思います。…ですが、この被害報告の数字は随分と疑わしいものです。あまりにも少な過ぎます」

「自分もそう思います」

「それと、調査方法に問題ありだと思います。住所欄に登録されているユーザーの数でしかなく、名前や生年月日の登録者は調査していないことになりますよね」

「いずれ直接顔を会わせると思いますが、その時に自分からも聞いてみるつもりでいます」

「そうですね。取り敢えずは24日には何らかの回答が頂けるようですので、それまで待ちましょう。そして、示談交渉になりますと弁護士を挟んでのやり取りになると思いますが、その場で質問なさるのが一番良いかと私も思います。また動きがありましたら、ご報告下さい」

長谷部さんとの電話を終え、PCを立ち上げた。

すると、昨夜の二次被害についての自分の返信に対するメールが届いていた。

2009年11月20日 10:30

Re: 【ミッドサイド窓口】【緊急】個人情報漏れについて

桜庭様

お世話になります。IPII コマース & テクノロジーの久慈です。  
ご連絡の方ありがとうございました。

取り急ぎお礼まで。

以上、よろしく申し上げます。

- - - - -  
- - - - -  
株式会社IPII コマース & テクノロジー  
東京都 区中央1 - 22 - 3 xxxビル16F  
03 - xxxxx - xxxxx (代表) 03 - xxxxx - xxxxx  
(管理本部)  
- - - - -  
- - - - -  
久慈 泰造 dkujii@IPII.co.jp

区立消費者センターの神谷さんにも、国民生活センターの長谷部  
さんにもベタ褒めされた。

複数の専門家がそこまで言うのだから、自分はIPII コマース  
&amp; テクノロジー社にとって相当有効な手痛い措置をとった  
のであろう。

それが何かは、正直分からない。

∴だとすれば、I P I コマー& a m p ∴テクノロジー社の顧問弁護士も交渉の場では本気でかかってくるに違いない。

自分は久慈なる男の全く心の伝わらないメールを眺めつつ、今になって急に込み上げる不安感を抑えるのに苦労した。

15・回答(2009年11月24日)

世間は三連休だった。

土日に勤労感謝の日が繋がり、世間は三連休であった。

しかし、自分は違う。

自分の様な仕事をしている人間は世間が休みである時こそ忙しい。基本的に盆も正月もなく、まとまった連休にはシステムの入れ替えが行われるからだ。

この三連休も仕事だった。

連休が終わった早朝にようやく帰宅。

変則的な時間に睡眠をとる。

不規則極まりない生活を強いられる。

それが自分の仕事である。

午後を回ってテレビをつけると2時間物ドラマの再放送が流れていた。

昨日まで世間は三連休だった。

そして今から世間は間食の時間に入ろうとしている。

流石に疲れが溜まっていたようだ。

とてもよく寝た。でも、まだ眠い。

こんな時間から身支度をし、朝食を食べに行く。

間食の時間に入ろうとしているコーヒー・シヨップで温かいコーヒーとサンドイッチを頼み席に着く。

人と待ち合わせをしていたが、一足先にサンドイッチにかぶりつ

いた。

程なくして、石狩がコーヒーを携えて現れた。

連休に入る前、第一発見者の石狩に「先方社から謝罪文が来たので、いろいろ報告したい」とメールを入れていた。

石狩が指定してきたのが、この日この時間であった。

石狩は自分と同じくエンジニアであると同時に新書を何冊も出版し、連載も抱える多忙な男である。しかし、今はエンジニアの方は少しお休みし、執筆に専念していると言っていた。締め切りが迫っていたらしく、明けたら暇だとも言っていた。

だから平日の午後に大のいい大人がコーヒー・ショップでまったりしているのである。

石狩も締め切りのプレッシャーから解放されたようで清々しい表情だった。しかし自分と同じく、ついさつき起きたのであろう。寝癖と無精髭が少々目立つ。それは自分も同じであった。

「どう？ 何か、面白いものが届いたって？」

テーブルに肘をつき片手でコーヒーをすすする石狩が言った。

「そう、これなんだけど…」

自分は書類の束を小さめの紙袋から取り出し石狩に手渡した。

石狩には先々週の日曜に電話で話して以来、今件の内容は一切話していない。彼も興味津々といった感じで書類の束を読み漁り始めた。

その書類にはメールのやり取りは勿論、画面のハードコピーやソース、そして謝罪文も含まれていた。

一心不乱に読み進める石狩。

流石、本を書く人間だけあって詠むのも早い。

その姿を眺めながら、自分は残りのサンドイッチを押し込んだ。

書類に一通り目を通した石狩が呆れたように口を開いた。

「おい…これ出版社に出したら飛びつくぞ！」

「やっぱコレってそんなに凄い物なの？」

「…まず、ここまで実名やら実印が並んでいて、詳細な記録が残されている。尚且つ、事件がともタイムリー」

「まあ、ここまで証拠を残しているのは、とても珍しいと専門の人も言ってた」

「本書け！…なんだったらウチのツテ、使って貰っても構わん」

「ええ！？本！？…そこまでの文章力ないですぜえ」

「今書いてるお遊びの刑事小説あるだろ？あの程度で十分」

「へえ？あんなのでいいの？名前とかは伏せるのが常識？」

「いや、そんなことない。この会社と本気で喧嘩する気なら、許可なくとも実名でオツケー」

「ふーん、そうなの…」

「だって、実名が駄目だったら週刊誌とか成立せんし…」

「ま、確かに…」

「ちなみにこの会社、俺とは一切関係ないから思いっきり喧嘩していいよ！」

「はは、喧嘩しろ！…て、言ってる？」

「俺、当事者じゃないし。それに興味あるし」

「最後の謝罪文は、示談を匂わせているし…成立するまで、待つてくれない」

「どうぞどうぞ、その時は是非！でも、けして印税で食っていけるとは思っな。いいところ、講演会がちょこつと来るかもしれん！

…程度に考えておきなさいな」

随分と長い朝食になってしまった。

「久しぶりに面白いネタにありつけたよ。相手は本当にプロか？  
……って疑うほど駄目駄目だね」

別れ際に石狩が残した言葉が印象的だった。

しかし「本に書け！」と言われるとは思ってもみなかった。とてもじゃないが、今はそんな気分になれない。まだ終わったわけじゃない。

帰り道のコンビニで煙草とおやつを買って帰った。

六畳半の真ん中にあるこたつ机に、おやつを並べ置き、火の点いていない煙草を啜えたままPCを立ち上げる。一瞬暗転した画面を確認した後、煙草に火を点けた

たかが3日立ち上げなかっただけで、色んなアップデートのお知らせが来ている。

それらを掻い潜りメーラーを立ち上げる。

案の定、メールも沢山溜まっていた。

その多くは読むことなく捨て去られる運命のものばかりであるが、そんな中に仕事やプライベートを含め重要なメールが埋もれている。大概のメールはメルアド単位でフォルダ分けされている。そして最近分類分けが新たに追加されたフォルダが太文字で強調された。

I P I コマース & amp ; テクノロジーの久慈なる男からである。

2009年11月24日 15:47

ご要望に関する回答

桜庭様

お世話になります。IPIコマース&テクノロジーの久慈です。

本日もご送付する予定でした回答書の方、添付させていただきました。

本日、弊社の取締役会があり、その会への報告もありまして  
ご連絡遅くなりました。申し訳ありませんでした。

原本は本日郵送させていただいております。  
まずはメールでのご連絡ご容赦ください。

なおbingのキャッシュの件については、私どもの方は11月2  
2日(土)

22:44時点では削除されている事を確認してまいります。

以上、ご不明な点等ございましたらご連絡いただければと  
思います。

以上、よろしく申し上げます。

-----  
-----  
株式会社IPI コマース&amp;テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxxxx-xxxxxx(代表) 03-xxxxxx-xxxxxx  
管理本部  
-----  
-----

- - - - -  
久慈 泰造      d k u j i @ I P I . c o . j p

ようやくメルタイから「Re:」が消えた。しかし、午後4時前になっての回答メールは如何なものか？

朝一で回答できないのであれば、翌日の朝一に回答する旨の連絡をすれば良いと思う。連絡が遅れた理由が取締役会というのも正直承服しかねる。

まったくもってマナーがなっていない。恐ろしいことに、それにすれ慣れ始めていた。

メールに添付ファイルがあった。「ご要望に対する回答書」I P I - C T | 0 9 1 1 2 4」との名のPDFファイルである。

どうやら正式文書らしい。さっそく開いてみる。

全部で11ページあるが、頭の3ページまでが目にしたことのない文書で残りは以前にもメールで報告を受けた対応履歴であった。

桜庭 潤様

2009年11月24日

株式会社IPI コマース&amp;テクノロジー

個人情報管理責任者 取締役 久慈泰造

東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F

TEL:03-xxxxx-xxxxx FAX:03-xxxxx-x

xxx(管理本部)

ご要望に関するご回答

拝啓、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度は、ご迷惑をおかけしておりまして大変申し訳ありません。再度お詫び申し上げます。また、ご要望に対する回答が大変遅くなつてしまい申し訳ありませんでした。

さて、下記の通り、桜庭様から11月15日に弊社ミッドサイド編集部宛にいただきましたメールでのご要望に関して、下記の通りご回答させていただきます。

以上、よろしくご査収のほどお願い申し上げます。

敬具

記

ご要望1) 個人情報漏れがあったこと、原因の開示、今後の個人情報に関する取り組み、当方以外の同様の問題の有無、M i D S I D E における個人情報の取り扱いのコンプライアンス、当件における謝罪、をM i D S I D E のH P のトップページにて明確に掲載すること。

回答1) ミッドサイドへの本件の掲載は、TOPページに「お客様情報の閲覧に関するお詫びとご報告について」の文言から「別紙1」へリンク(PDFファイル)する方法にて掲載する予定としていきます。なお掲載時期についてはbing(ht t p : / / w w w . b i n g . c o m / ) のキャッシュが削除されていない状態で行うと、いたずらに検索する方が多数おられる事が想定されるため、キ

ヤッシユの削除が確認された後掲載する予定でしたが、本日削除されている事を確認しましたので、準備出来次第（今週中）掲載したいと思えます。

ご要望2）Google社への削除要請手続き

回答2）Google社への削除要請手続きに関しては、これまでも随時ご報告させていただきました通りです。詳細は「別紙2」を参照ください。

ご要望3）損害賠償の請求

回答3）弊社顧問弁護士と協議させていただきました結果、精神的慰謝料として金、15,000円をご指定の金融機関へお振込みさせていただければと思えますので、金融機関名、口座種類、口座番号をご連絡いただければと思えます。

以上

正式な謝罪が来た。

しかし相変わらず下手くそな文章である。一文に「下記の通り」が複数回出てきたり、「ご」や「お」を付ける箇所に統一性がなかったりする。

そもそも、出だしの「時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます」が謝罪文に適切なのかどうかも怪しい。

これが社印をついた文書で、且つ取締役会を通過した文書となると、やはり実態の伴わないとても痛い会社だった。

とりあえず謝っていることだけは伝わった。

しかし「精神的慰謝料として金、15,000円をご指定の金融機関へお振込みさせていただければ」というのには少々驚いた。金額の安さに今更驚いた訳ではない。15,000円という金額の根拠も知っている。最も驚いたのは、近くに居ながら会わずして振込みで逃げ切ろうとする魂胆が見えたからである。

そして金融機関名、口座種類、口座番号を聞いてきたのはいいが、「店番」が抜けている。店番がなければ振り込めない。そんなこと振込み詐欺師でも知っている。

まさか取締役会で誰も指摘しなかったのだろうか？

この一週間あまり、こんな輩に振り回されたかと思うと悲しくな  
った。

いったい自分は誰と戦っていたのだろうか？

自分は煙草を啜えたまま後に寝そべり、天井に吸い込まれる煙を  
目で追った。

16・呼出)2009年11月24日)

確かに自分は「精神的慰謝料として金、15,000円」の意味合いを知っている。

しかし、それは自分で得た知識があったからであって、その知識を持たない者からすれば至って小額だと思っ筈である。

この「15,000円」の法的根拠と株式会社IPI コマース & テクノロジーとしての心持ちと姿勢を是非とも聞いておきたいと思った。

PDFファイルを更にスクロールさせると「別紙1：ミッドサイド掲載文章」なるHPに掲載する予定と思われる謝罪文の草案があった。

どこか納得出来ず、モヤモヤする気持ちを噛み締め、自分は草案に目をやった。

別紙1：ミッドサイド掲載文章

2009年11月 日

お客様各位

株式会社IPI コマース & テクノロジー

お客様情報の閲覧に関するお詫びとご報告について

このたび、当社が運営するミッドサイド(<http://www> .

midside-games.jp/）において、一部の会員様の個人情報が各種検索サイトから検索可能になり、閲覧可能な状態になっていることが判明いたしました。このような事態となりお客様には多大なるご迷惑とご心配をお掛けすることになり、深くお詫び申し上げます。

概要および対応等につきましては、下記のとおりです。

当社では、今回の事態を厳粛に受け止め、全容の解明と再発防止に努めるとともに、お客様安心してご利用いただけるサービスの提供に向けて、従来にも増して全力で取り組んでまいります。

## 記

1. 閲覧可能となっていた状態について

「閲覧できる可能性があった個人情報」

「本名」「住所」「年齢」「誕生日」

「閲覧できる可能性があったお客様情報の数」  
4名

「お客様から個人情報閲覧に関する報告数」  
1件

「対応について」

Google等の検索エンジンへキャッシュ削除依頼し、ミッドサイドに検索エンジン側へキャッシュさせない為の処理を行いました。また、漏洩した情報は保有するべきでないと判断し、DB上から削除し当該個人情報が閲覧できないようにする作業を行いました。

2. 原因と再発防止策

ミッドサイドでの初期のユーザー登録情報については個人情報と

して把握し、適切に取り扱っており、お客様に個人情報取得の為に必要な情報があることに同意をいただいておりますが、登録後に追加記入でき公開されるページでは、公開を希望しない場合は、記入しないよう注意文を掲載していたものの、「本名」「住所」等の個人情報も項目として設けていた点に問題がございました。

再発防止策として、これまでに登録され当社が取得した「本名」「住所」のデータをDB上から削除し、また、ミッドサイドのプロファイル入力画面（本個人情報が入力されていた画面）から「本名」「住所」「E-mailアドレス」の入力欄自体を削除し、個人情報を取得しないようにいたしました。

また、今後、個人情報の取り扱いに関する適切な判断を行っていくよう、従業員への教育を徹底して参ります。

### 3. お客様への対応について

情報の閲覧可能性があったお客様には、当社より個別にご連絡し、お詫びと状況のご説明をさせていただきます。

#### 【本件に関するお客様窓口】

〒160 - xxxxx 東京都 区中央一丁目22番3号    xx  
xxビル16F

株式会社IPI コマス&amp;テクノロジー

TEL: 03 - xxxxx - xxxxx    FAX: 03 - xxxxx -  
xxxxx

E-Mail: privacy-admin@ipi-ct.co.  
jp

担当者： 久慈 泰造 くじたいぞう

一見まともな謝罪文に見えるが、実状を知っている自分からすれ

ば違和感を覚えずにはいられなかった。

まず、個人情報の閲覧及び個人情報が検索エンジンのキャッシュに載ってしまったことは公表しているが、Googleに限定していることが事実と異なる。Googleだけでなく、他のサイトでも引っ掛かっていたことには全く触れられておらず、bingに関しては4日前までキャッシュ削除がされていなかった。「喉もと過ぎれば火もまた涼し」とはこの事であろうか。

そして何よりも、検索サイトからログイン可能で成りすまし可能であったことが、全く触れられていない。ミッドサイドはユーザー用の掲示板を持っており、本人とは異なる人物が問題ある書き込みを行うことは可能であった。その危険性は完全に無視されている。

「当社では、今回の事態を厳粛に受け止め、全容の解明と再発防止に努めるとともに、お客様安心してご利用いただけるサービスの提供に向けて、従来にも増して全力で取り組んでまいります」という一文はただのお題目に過ぎない。

そもそも「当社」ではなく「弊社」とするべきである。

そして注意文を読み逃した自分が悪いかの様な書きっぷりも気分が悪い。注意文に関しては自分からも誤解を招くと指摘している。こっそりと画面の注意文を直しておきながらこの言い草かと思うと嫌気が差す。

しかし、まるで何かのテンプレートに則って書いたとしか思えない謝罪文である。事実を知らない人からすれば随分とまっとうな事を述べている様に思える文章である。これも所謂、素人を騙す手段のひとつだ。耳障りの良い言葉を並べ、都合の悪い事を覆い隠す。

もしこれを指摘すれば返ってくる言葉は予想がつく。「お客様の個人情報に関する事柄であり、不必要に不安を掻き立てる事は好ましくない」。これも耳障りの良い言葉の羅列である。

何よりも驚いたのは、再発防止策だ。

「これまでに登録され当社が取得した「本名」「住所」のデータをDB上から削除」

流石にこれには閉口せざるを得ない。

これは確実に個人情報である。個人情報を取り扱うということが根本的に分かっていない。取り扱うということは情報保有もだが、「削除」することも含まれる。

個人情報漏洩の危険があるから、DB上から削除した。これまでにやり取りしたメール同様、まるで臭いものには蓋をするかのような対応である。最早ここまで来れば、IPII コマース& amp ;テクノロジー社の社風としか思えない。

DB上から削除はしたが、転記及び他のメディアに出力された事実はないのか？

それが全く触れられていない。

「ユーザー登録情報については個人情報として把握し、適切に取り扱っており」というのは嘘っぱちということだ。

閲覧できる可能性があったお客様情報の数も怪しい。あくまで住所欄に入力された件数でしかなく、本名欄入力では確実にもっと多い筈である。

まさかとは思うが、「住所欄入力された件数と本名欄入力された件数は同じ」と言い張るつもりではあるまいな。

やはりこれは直接会って話をする必要がある。  
自分はそう思った。

2009年11月24日 16:11

Re: ご要望に関する回答

久慈様

ご回答ありがとうございます。  
bingの削除の件は当方でも確認しております。  
ありがとうございます。

11月18日においで下さって以来、未だお会いできておりません。  
当件につきまして一度は顔を付き合わせるつもりで当方はおりました。  
た。

添付された資料、当方でも確認させて頂きましたが承服しかねます。  
一度お会いしてお話を伺いたいのですが、そちらさまのご都合はいかがでしょうか？。

尚、このような謝罪の場合メールと郵送だけで済まされるのはビジネス・マナー的にかがななものかと思っております。

以上、よろしくお願い致します。

逃げ切る気満々のところ恐縮だが、こっちはそうはいかない。  
情報漏洩の被害者と思うなら、本人に直接会わずに事を済ませよ  
うとする魂胆が気に入らない。遠いならいざしらず、地下鉄では同  
じ沿線であり30分とかからないのである。

そもそも久慈なる男はアポなしでやって来たではないか。何を今  
更逃げるのだろう。

それも顧問弁護士の指示であろうか？

失礼かもしれないが、メルタイは「Re:」にさせてもらった。  
約3時間後、返事が来た。

2009年11月24日 18:54

Re: ご要望に関する回答

桜庭様

お世話になります。IPIイコマス&テクノロジー久慈です。

大変失礼しました。

桜庭様のお仕事の都合もあると思いますので、ご都合の良いお時間と場所を、明日以降でご指示いただければ、そちらに合わせてお伺いさせていただきます。

以上、よろしくお願ひします。

ミッドサイドへはお詫びを18:00頃掲載させていただきました。

- - - - -  
- - - - -  
- - - - -

株式会社IPI コマス&amp;amp;テクノロジー

東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F

03-xxxx-xxxx(代表) 03-xxxx-xxxx(

管理本部)

- - - - -  
- - - - -  
- - - - -

久慈 泰造 dkujii@IPI.co.jp

返信はまたも「Re:」だった。

勝ち誇った様に「ミッドサイドへはお詫びを18:00頃掲載  
させいただきました。」とあった。

おい！ 待てよ！ この文章では不十分だ！

とり急いでミッドサイドのHPを開けるとページの中程の右側、  
けて目立つとは言えない箇所にユーザーへのお知らせとしてリン  
クが貼つてある。

嫌な予感しかなかったが、早速見てみると、つい3時間前に自分

が見た文章と一字一句違わぬ謝罪文がそこにあった。

間違いない。

いつまでこの謝罪文が掲載されるのかは分からないが、少しでも早くこの個人情報漏洩の件を終わらせたいのは間違いない。

しかし「ご都合の良いお時間と場所を、明日以降でご指示いただければ、そちらに合わせてお伺いさせていただきます。」とはどういう事だろう。

こういつた企業機密に関わる事案は漏洩することが問題なので、社内の会議室や賃貸会議室で行うのが常識である。

まったくもって、情報の取り扱いと常識がなっていない企業である。

ならば、そちらが言うのだから、こちらから指定してやろう。それも公の場所に。

2009年11月24日 19:04

Re: ご要望に関する回答

久慈様

ご連絡ありがとうございます。

明日(25日)の15時にJR A 駅南口の交番前で落ち合うとい

うことでよろしいでしょうか？。

後、何人様でいらっしやいますでしょうか？

よろしくお願い致します。

以上。

時間にして僅か10分での返信である。

自分はそう簡単に逃がしはしない。

暗に顧問弁護士を連れて来いと書いておいた。

反応がとても楽しみだ。

すると珍しく素早い返信が来た。

2009年11月24日 19:22

Re: ご要望に関する回答

桜庭様

お世話になります。IPイコマーズ&テクノロジー久慈です。

25日(水)15:00了解しました。

私とPアイコン担当の者と2名でお伺いします。

桜庭様の方でよろしければですが、弊社の会議室をご利用いただいてもと思いますが、いかがでしょう。

ご負担になるようでしたら、JR A 駅南口の交番前で問題ございません。

以上、よろしく申し上げます。

- - - - -  
- - - - -  
株式会社IPI コマス&amp;amp;テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxx-xxxx(代表) 03-xxxx-xxxx  
管理本部)

久慈 泰造 dkujii@IPI.co.jp

メルタイ「Re:」で来た。  
社風なのか、慌てているのか、定かではないが、今になって気付いた様だ。

「弊社の会議室をご利用いただいてもと思いますが、いかがでしょう」

背後に弁護士の影を感じ、先日の書かされているメールと同じ匂

いも感じる。

さっきのメールは久慈なる男、そしてIPII コマース&amp;amp; テクノロジー社にとって大きな失策だった。

顧問弁護士はやって来ない。その代わりに「Pアイコン担当の者」が来る。

この事実が裏付けている。

一度は自分が譲歩した。

IPII コマース&amp;amp;amp; テクノロジー社に出向くつもりだった。

そのちやぶ台を久慈なる男はひっくり返した。

覆水盆に返らず。

今更、何を言っても無駄だ。

2009年11月24日 22:33

Re: ご要望に関する回答

久慈様

明日25日(水) 15:00 JR A駅南口の交番前でお願い致します。

< 桜庭様の方でよろしければですが、弊社の会議室を

< ご利用いただいてもと思いますが、いかがでしょうか。

貴社の企業機密に関わる事案である為、当方と致しましても最大限の配慮をさせて頂いたつもりでございました。

先のメールで「そちらさまのご都合はいかがでしょうか?。」と伺ったのは

そういった事情に配慮してのことでしたが、久慈様のお返事は

「桜庭様のお仕事の都合もあると思いますので、ご都合の良いお時間と場所を、明日以降でご指示いただければ、そちらに合わせさせていただきます。」

とのことだった為、当方と致しましては企業機密漏洩に関して関知されないと判断させて頂き、明日25日(水) 15:00 JR A 駅南口の交番前を指定させていただいた次第です。

場所は当然喫茶店等になると思われますが、そちらの方も関知されないと判断しております。

明日25日(水) 15:00にお待ちしております。  
以上。

自分は覆すつもりはない。

既に帰宅していると思われる相手に挑戦的なメールを送っていた。

このままなら明日、久慈なる男と対面することになる。  
いよいよ対決の時が来た。

顧問弁護士が逃げたのは残念だが、I P I コマース& a m p ;  
テクノロジー社の取締役を遂に引っ張り出した。それも公の場所に。

自分は高ぶる心を隠しきれなかった。

ひよっとしたら、緊張というものかもしれない。

17・立会(2009年11月25日)

2009年11月25日 2:15

Re: ご要望に関する回答

桜庭様

お世話になります。IPIコマース&テクノロジー久慈です。

了解しました。

15時にJR A駅南口の交番前に参ります。

以上、よろしく申し上げます。

株式会社IPI コマース&テクノロジー  
東京都 区中央1-22-3 xxxビル16F  
03-xxxx-xxxx(代表) 03-xxxx-xxxx  
管理本部)

久慈 泰造 dkujj@IPI.co.jp

深夜2時を回ったのメールだった。

当然、自分は翌朝にメール・チェックしたのだが、久慈なる男は今日の深夜2時15分にメールを寄越して来た。

はつきりと言えることは、久慈なる男はこの深夜2時まで会社にいたということである。

その目的は分からない。

分からないが、大方の予想はつく。顧問弁護士の影がどうしてもチラつく。

今日、自分と社外で会うことは企業として相当な失態であった。

その為の会議という名の入れ知恵なのだろうと思う。所謂、一夜漬けというやつである。

…となると、顧問弁護士は今日、現れない。…おそらく。

それが賢明だと思う。

のこのこと公の場に出て行って企業機密を晒す真似などする筈がない。

ただ、まだ可能性の話であって突如何の前ぶれもなく現れることも考えられなくはない。

可能性としては極めて低いが、頭の片隅に留めておく必要はある。

弁護士が現れるかどうかは定かではないが、少なからず一企業との示談交渉に出向くわけである。流石にひとりで出向くのは危険だと思った。

しかし頼める人間は限られている。

個人情報保護法に詳しいこと。そして、この件を知っている人間でなければならぬ。

…となると、石狩か細田に限られる。

石狩は、今日25日は自宅には居るが忙しいと言っていた。  
細田も、今日25日は忙しい筈である。

駄目もとで細田に電話してみた。

午前中は忙しいが、午後なら空いているそうだ。

迷わず細田に今日の示談交渉の立会いを頼み込んだ。

「面白いことになってきたなあ……」

…と、細田は快諾してくれた。

これで力強い味方ができた。

電話口で軽く話し合った結果、「お前らじゃ話にならん！もっと偉い奴連れて来い！」と第2ラウンドに持ち込むのが、今日の最終目標とした。

相手の出方次第のところはあるが、果たしてそこまで持ち込めるのか？

はつきり言って自信はまったくない。

なぜなら全く未経験の領域だからだ。

そもそもこの様な経験をする人間など極めて少ないのであろう。

そんな経験を目前に控えた自分は余程の幸運の持ち主なのか？

ただ悪運が強いだけなのか？

兎に角、相手は一応役員肩書きなので、額面とネットに掲載する文言の変更まで行けば立派だとしておこう。

14時過ぎ、細田はJR A駅南口にやって来た。

当然自分はお迎えに行った。

示談交渉1時間前。ここまでの経過報告と示談交渉に向けて二人

で軽く話し合おうということにしていた。

ここまで届いたメール、文書…全てをプリント・アウトして細田に見せた。

「…本気で酷いなあ」

細田は呆れた口調だった。

「ええ、自分もそう思います。なので、今日会うことにしました」

「しかし…それにしても示談金1万5千円って安過ぎねえか…」

「正直、自分も納得してはいませんが、今現在の個人情報漏洩での国内最高金額になります」

「え！？ そうなの？」

「ええ、そうです。京都府宇治市の住民基本台帳から個人情報が出た件が裁判になったのですが、その時の示談金がひとり1万5千円です…うち、5千円が弁護士報酬となっています」

「そりゃ、地方自治体が大損して弁護士が丸儲けしたってことか？」

「まあ、ひとり当たり5千円を集めればかなりの金額になると思いますね」

「俺がこのIPIIとかいう会社の社長だったら、一千万ぐらい渡してキツパリ黙らせるけどな」

「そういった考えをされない企業だと思います」

「普通はそうなのかねえ？ これをマスコミとかネットに流される方を心配するけどなあ、俺だったら…」

「そういった考えをされない企業なのでしょう、きっと」

時間はあっという間に14時半を回り、待ち合わせに向うことにした。

J R A 駅南口のロータリーには喫煙所があり、そこからだと南口と派出所が一望できる。

細田と煙草を燻らせながら、相手を待った。

携帯の時間はもうすぐ15時を指す。

自分は紫煙の向こう側、南口派出所前に立つ人間を見やった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1114o/>

---

締めて壹萬五千元なり

2011年10月7日23時42分発行